

京都における産学公連携就職支援の あり方についての調査・研究報告 (別 冊)

調査データ集

平成24年 9 月

京都における産学公連携就職支援のあり方についての調査・研究会

一般社団法人 京都経済同友会「大学のまち・京都」を考える特別委員会

一般財団法人 地域公共人材開発機構

○ 共同研究会 ○

目 次

(1) 対大学生・院生	1
概要／調査票見本／集計結果	
(2) 対大学	11
概要／調査票見本／集計結果	
(3) 対企業（2年以内の新卒採用者）	27
概要／調査票見本／集計結果	

調査にご協力くださいました方々に 心から感謝を申し上げます。

(1) 対大学生・院生

概 要

本研究会では、大学生（大学院生含む）と中堅企業・中小企業間の「雇用のミスマッチ」の前に、双方の「情報の非対称性（お互いに情報過疎である状態）」により、そもそも学生の多くが中堅・中小企業を志望していないのではとの仮説を立てた。

そこで、平成 23 年度に就職活動を始めた大学生・院生を対象に「中堅・中小企業への就職活動に関する意識調査のためのアンケート」を行い、その因果関係について調査した（調査票参照）。

調査時期は平成 24 年 2 月。

中堅・中小企業への就職活動に関する意識調査のためのアンケート

「京都における産学公連携就職支援のあり方についての調査・研究会」では、より広い視野とグローバルをキーワードに京都で学ぶ学生と京都の中堅・中小企業とのマッチングを目指しております。つきましては、今後の事業の参考とするため、これから就職活動を始める学生の現状把握のためのアンケートにご協力ください。

■ 下記、情報をご記入ください。

性別	男・女	学年	回生	出身地	
----	-----	----	----	-----	--

* 本アンケートでは、大企業:一部上場企業 中堅・中小企業:一部上場以外の企業と定義します。

■ 下記、あてはまる内容をご記入ください。

1. 中堅・中小企業に関する就職活動や企業研究に関する本や雑誌等は読んだことがありますか？

1. はい 2. いいえ

2. 両親、先輩、知人等から中堅・中小企業に対する就職活動に関する話を聞いたことがありますか？

1. はい 2. いいえ

3-1. インターンシップは経験しましたか？

1. はい 2. いいえ

(3-1で「1. はい」をご回答いただいた方は、3-2、3-3もご回答ください)

3-2. インターンシップの期間はどれくらいですか？

3-3. インターンシップ先はどのようなところですか？

1. 大企業 2. 中堅・中小企業 3. その他()

4-1. 京都で働きたいと思いますか？

1. はい 2. いいえ

(4-1で「1. はい」とご回答いただいた方は、4-2もご回答ください)

4-2. 京都で働きたい理由を教えてください。

5. 中堅・中小企業でイメージするキーワードを3つ教えてください。

1. ()
2. ()
3. ()

6. 大企業と中堅・中小企業への志望度の割合を教えてください。

(大企業 %: 中堅・中小企業 %)

* 合計が 100%になる形でご記入ください。

■あなたが就職活動を行う上で考えていることについて教えてください。あなたの考えにもっとも近いと思われる番号を○で囲んでください。

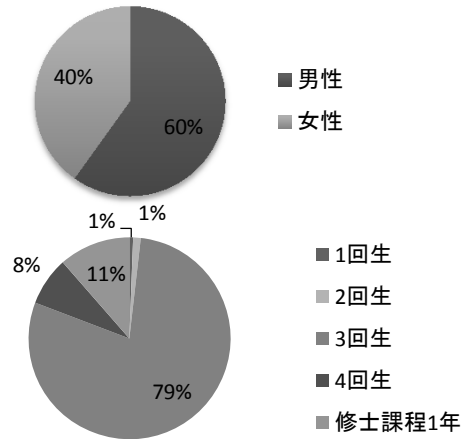
		非常にそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
1	名前の知られた会社で働きたい	1	2	3	4
2	福利厚生の充実した会社で働きたい	1	2	3	4
3	責任ある仕事を任されたい	1	2	3	4
4	地域に貢献をしている会社で働きたい	1	2	3	4
5	ビジョン・理念に共感する会社で働きたい	1	2	3	4
6	社員の成長をサポートしてくれるような会社で働きたい	1	2	3	4
7	面白い仕事であれば、給与が少なくても構わない	1	2	3	4
8	ひとつの会社で長く働きたい	1	2	3	4
9	仕事を通じて自分を成長させたい	1	2	3	4
10	5年後、10 年後のキャリアプランを明確に決めて働きたい	1	2	3	4
11	自分を必要としてくれる会社で働きたい	1	2	3	4
12	一方的な指示命令を受けるようなスタイルの会社で働きたくない	1	2	3	4
13	仕事を通じて高い専門性や知識を獲得したい	1	2	3	4
14	やりたいことができないのなら働く意味がないと思う	1	2	3	4
15	自分に裁量権のある仕事がしたい	1	2	3	4

中堅・中小企業への就職活動に関する意識調査のためのアンケート 実施時期2012年2月～3月

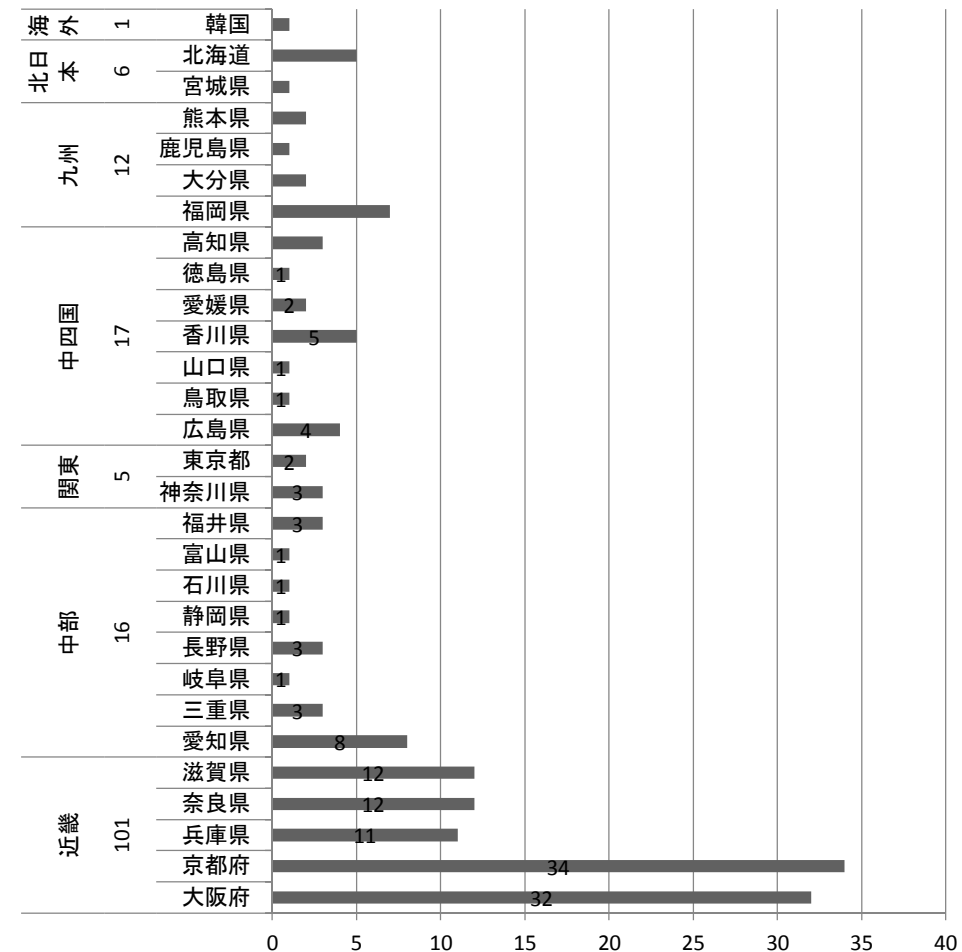
アンケート回収数 内訳

性別	人数	合計
男性	100	167
女性	67	

学年	人数
1回生	1
2回生	2
3回生	131
4回生	13
修士課程1年	19



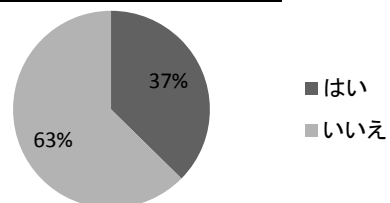
出身地域	合計人数	都道府県別	内訳人数
近畿	101	大阪府	32
		京都府	34
		兵庫県	11
		奈良県	12
		滋賀県	12
中部	16	愛知県	8
		三重県	3
		岐阜県	1
		長野県	3
		静岡県	1
		石川県	1
		富山県	1
		福井県	3
関東	5	神奈川県	3
		東京都	2
中四国	17	広島県	4
		鳥取県	1
		山口県	1
		香川県	5
		愛媛県	2
		徳島県	1
		高知県	3
九州	12	福岡県	7
		大分県	2
		鹿児島県	1
		熊本県	2
北日本	6	宮城県	1
		北海道	5
海外	1	韓国	1



* 本アンケートでは、大企業：一部上場企業 中堅・中小企業：一部上場以外の企業 と定義します。

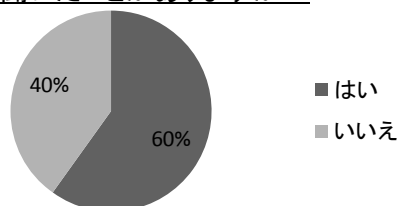
1. 中堅・中小企業に関する就職活動や企業研究に関する本や雑誌等は読んだことがありますか？

質問1	人数
はい	62
いいえ	104



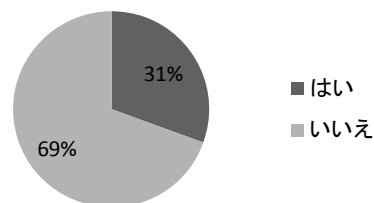
2. 両親、先輩、知人等から中堅・中小企業に対する就職活動に関する話を聞いたことがありますか？

質問2	人数
はい	100
いいえ	67



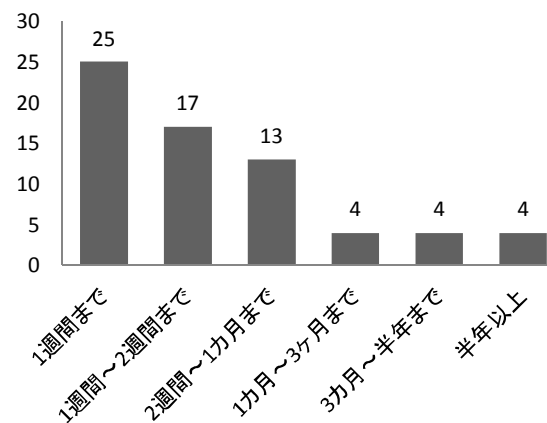
3-1. インターンシップは経験しましたか？

質問3-1	人数
はい	51
いいえ	116



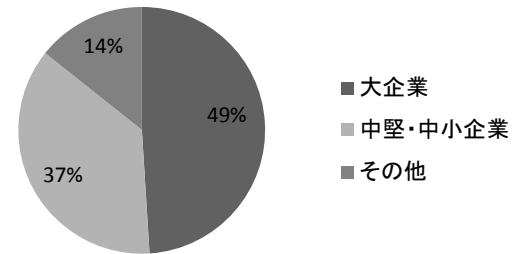
3-2. インターンシップの期間はどれくらいですか？(3-1)で「はい」と答えた人のみ回答

質問3-2	人数
1週間まで	25
1週間～2週間まで	17
2週間～1カ月まで	13
1カ月～3ヶ月まで	4
3カ月～半年まで	4
半年以上	4



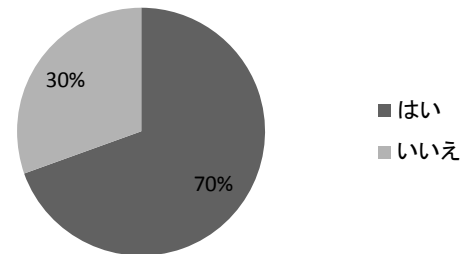
3-3. インターンシップ先はどのようなところですか？（3-1で「はい」と答えた人のみ回答）

質問3-3	人数
大企業	24
中堅・中小企業	18
その他	7



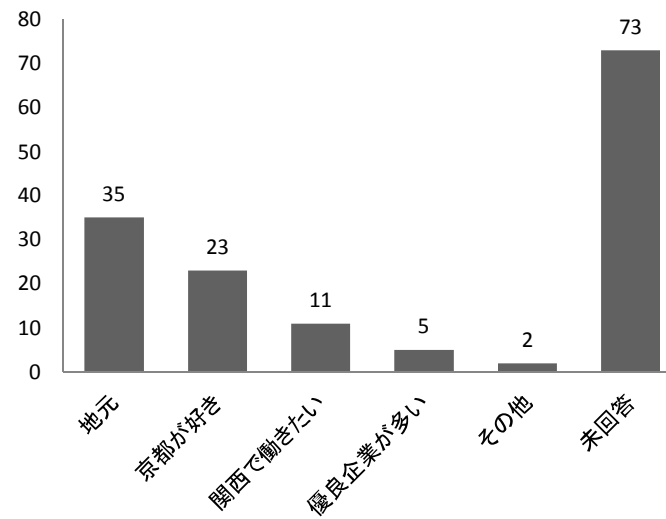
4-1. 京都で働きたいと思いますか？

質問4-1	人数
はい	105
いいえ	46



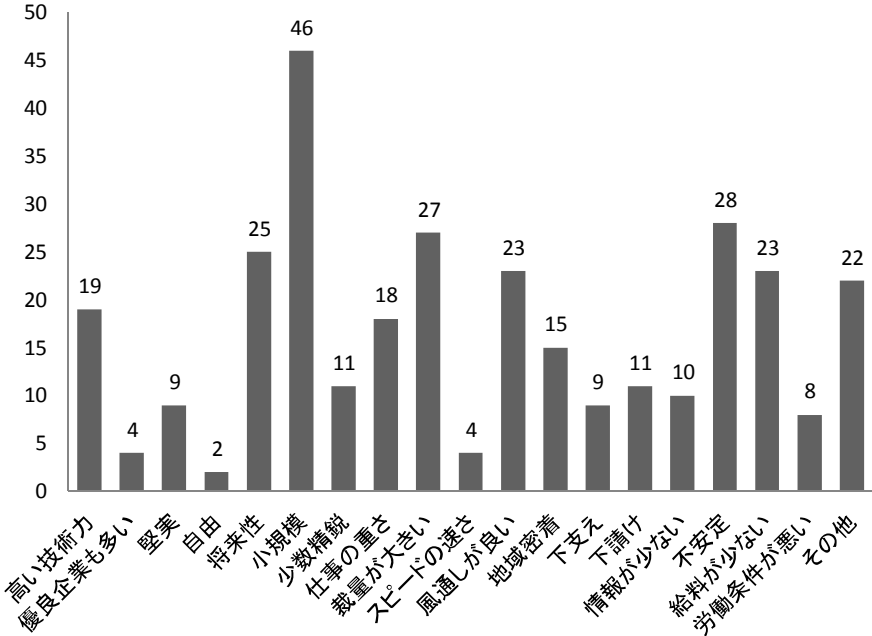
4-2. 京都で働きたい理由を教えてください。

質問4-2	人数
地元	35
京都が好き	23
関西で働きたい	11
優良企業が多い	5
その他	2
未回答	73



5. 中堅・中小企業でイメージするキーワードを3つ教えて下さい。

質問5	人数
高い技術力	19
優良企業も多い	4
堅実	9
自由	2
将来性	25
小規模	46
少数精鋭	11
仕事の重さ	18
裁量が大きい	27
スピードの速さ	4
風通しが良い	23
地域密着	15
下支え	9
下請け	11
情報が少ない	10
不安定	28
給料が少ない	23
労働条件が悪い	8
その他	22

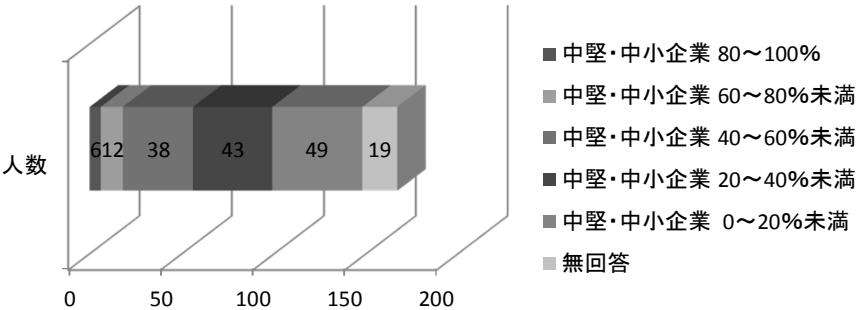


※「11. その他」の詳細は以下の通り

- ・派手さに欠ける
- ・最初の就職先としては望ましくない
- ・人を大事にしている
- ・古風
- ・家族経営
- ・エネルギー等

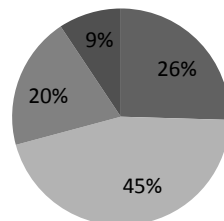
6. 大企業と中堅・中小企業への志望度の割合を教えてください。

中堅・中小企業 志望割合	人数
中堅・中小企業 80～100%	6
中堅・中小企業 60～80%未満	12
中堅・中小企業 40～60%未満	38
中堅・中小企業 20～40%未満	43
中堅・中小企業 0～20%未満	49
無回答	19



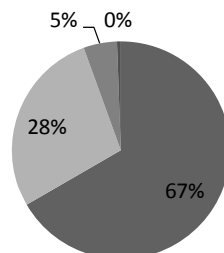
■あなたが就職活動を行う上で考えていることについて教えてください。あなたの考えにもっとも近いと思われる番号を○で囲んでください。

1. 名前の知られた会社で働きたい	人数
非常にそう思う	41
ややそう思う	73
あまりそう思わない	32
全くそう思わない	15



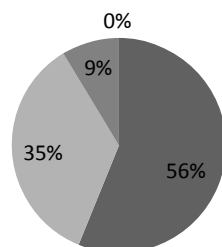
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

2. 福利厚生が充実した会社で働きたい	人数
非常にそう思う	108
ややそう思う	45
あまりそう思わない	8
全くそう思わない	1



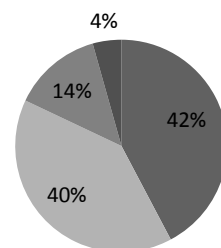
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

3. 責任のある仕事を任せられたい	人数
非常にそう思う	91
ややそう思う	57
あまりそう思わない	14
全くそう思わない	0



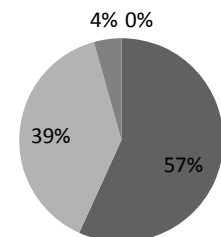
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

4. 地域に貢献している会社で働きたい	人数
非常にそう思う	68
ややそう思う	64
あまりそう思わない	22
全くそう思わない	7



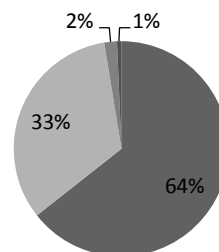
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

5. ビジョン・理念に共感する会社で働きたい	人数
非常にそう思う	92
ややそう思う	63
あまりそう思わない	7
全くそう思わない	0



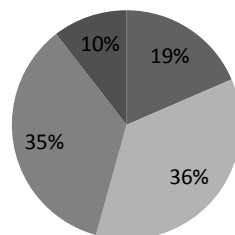
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

6. 社員の成長をサポートしてくれるような会社で働きたい	人数
非常にそう思う	103
ややそう思う	53
あまりそう思わない	3
全くそう思わない	1



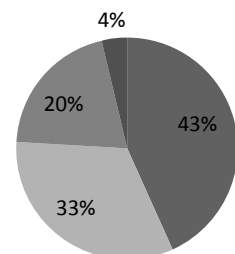
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

7. 面白い仕事であれば、給与が少なくても構わない	人数
非常にそう思う	30
ややそう思う	58
あまりそう思わない	57
全くそう思わない	17



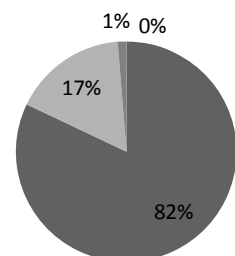
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

8. ひとつの会社で長く働きたい	人数
非常にそう思う	70
ややそう思う	53
あまりそう思わない	33
全くそう思わない	6



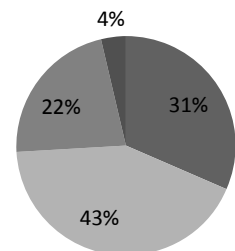
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

9. 仕事を通じて自分を成長させたい	人数
非常にそう思う	133
ややそう思う	27
あまりそう思わない	2
全くそう思わない	0



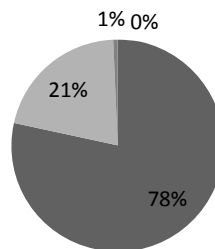
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

10. 5年後・10年後のキャリアプランを明確に決めて働きたい	人数
非常にそう思う	51
ややそう思う	69
あまりそう思わない	36
全くそう思わない	6



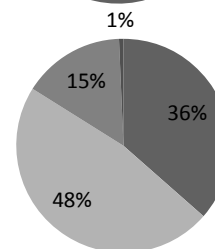
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

11. 自分を必要としてくれる会社で働きたい	人数
非常にそう思う	127
ややそう思う	34
あまりそう思わない	1
全くそう思わない	0



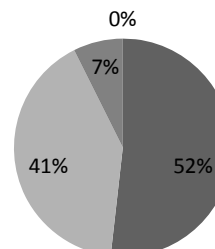
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

12. 一方的な指示命令を受けるようなスタイルの会社で働きたい	人数
非常にそう思う	59
ややそう思う	77
あまりそう思わない	25
全くそう思わない	1



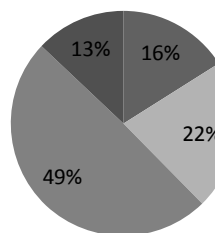
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

13. 仕事を通じて高い専門性や知識を獲得したい	人数
非常にそう思う	84
ややそう思う	66
あまりそう思わない	12
全くそう思わない	0



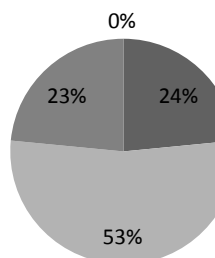
- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

14. やりたいことができないのなら働く意味がないと思う	人数
非常にそう思う	26
ややそう思う	35
あまりそう思わない	80
全くそう思わない	21



- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

15. 自分に裁量権のある仕事がしたい	人数
非常にそう思う	38
ややそう思う	86
あまりそう思わない	38
全くそう思わない	0



- 非常にそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

(2) 対大学

概 要

大学生（大学院生含む）と中堅・中小企業間の「雇用のミスマッチ」を防ぐ一つの方法として、1998 年以降、多くの大学で実施されるに至った「インターンシップ」がある。というのも、このインターンシップ自体が「情報の非対称性」を解消し、企業のニーズ、学生のニーズを確認したり、交換できたりする機会になると考えられるからである。

他方、平成 22 年度の同友会が実施した「大学生の就業力支援に関する企業・大学アンケート結果」から見えてくるインターンシップに対する企業の現状認識としては、「受け入れるための体制がない（39%）」「インターンシップと採用が結びつかない（18%）」「教育的効果の評価が難しい（12%）」「大学における授業や講義科目との関連づけが難しい（7%）」と決して肯定的とは言えない意見が多く寄せられている。

そこで、本研究会では、課題や成功事例の抽出を通じて、現行のインターンシップのあり方について検討を加えるべく、以下、大学コンソーシアム京都加盟大学（ただし、大阪の大学、放送大学を除外。また 4 年生大学のうち、短期大学部を持つ大学については、大学本体の方にヒアリング）を対象に、「インターンシップ実施状況についての現況調査」（（調査票は別紙参照）を行った。

調査時期は平成 24 年 2 月。

（参考）大学コンソーシアム京都加盟大学一覧

【4 年生大学】

大谷大学、京都医療科学大学、京都外国語大学、京都学園大学、京都華頂大学、京都教育大学、京都光華女子大学、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学、京都産業大学、京都女子大学、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、京都大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、京都府立大学、京都府立医科大学、京都文教大学、京都薬科大学、種智院大学、成安造形大学、成美大学、同志社大学、同志社女子大学、花園大学、佛教大学、平安女学院大学、明治国際医療大学、立命館大学、龍谷大学、大阪医科大学、大阪成蹊大学芸術学部、放送大学京都学習センター

【短期大学】

池坊短期大学、大谷大学短期大学部、華頂短期大学、京都外国語短期大学、京都経済短期大学、京都光華女子大学短期大学部、京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都女子大学短期大学部、京都市立看護短期大学、京都西山短期大学、京都文教短期大学、成美大学短期大学部、京都聖母女学院短期大学、平安女学院大学短期大学部、龍谷大学短期大学部

(対大学 調査票見本)

「大学コンソーシアム京都加盟大学インターンシップ実施状況について」(アンケート票)

大学名	
設立年(年)	
学生数(人)	
教員数(人)	
学部学科	
独自インターンシップの有無	
実施主体	
専任スタッフ (コーディネーター)	
教学との連携の有無	
単位認定	
独自プログラム	
実施時期	
実施期間	
参加者数	
主な派遣先	
事前学習	
事後学習	
保険などの支援体制	
その他特色	

大学名	京都大学	京都教育大学	京都府立大学
設立年(年)	1897	1949	1949
学生数(人)	13,236	1,498	1,750
教員数(人)	2,848	116	157
学部学科	10学部21学科 総合人間学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、薬学部、工学部、農学部	1学部1学科 教育学部	3学部11学科 文学部、公共政策学部、生命環境学部
独自インターンシップの有無	有	有	有
実施主体	キャリアサポートセンター	就職・キャリア支援センター	キャリアサポートセンター
専任スタッフ(コーディネーター)	職員	科目担当教員・元校長の客員教授・職員	科目担当教員
学部との連携の有無	有	有	有
単位認定	一部、専攻などにより授業の一環となる場合がある		有
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	・コンソーシウム京都 ・官公庁(申し込みは所属部局教務掛)及び一般企業の公募 ・各専攻内実施 (一部の部局では、専攻により授業の一環として行われる。 その場合は担当の先生と要相談)	・コンソーシウム京都 ・学校インターンシップ研修(科目) ・企業からの公募	・一般企業 ・情報化学科:情報関連 ・環境デザイン学科:建築関係 ・公共政策学部:NPO及び京都府内行政関係 ・各担当教諭
実施時期	実習先により異なる	教育実習以外は、コンソーシウム京都に合わせて	3回生 夏休み(※2回生から可)
実施期間	実習先により異なる	10日(教育実習)	夏休みの間
参加者数	実習先により異なる	40人(教育実習)、応募78人 マッチング4人(コンソーシウム京都)	年数名
主なインターンシップ先	官公庁(申し込みは所属部局教務掛) 企業からの公募(情報はキャリアサポートセンターで提示、申し込みはHPを通して) コンソーシウム京都を通しての参加	公立小中学校 公的法人(行政、国立大学) 小売、マスコミ等	・キャリアセンター主導のインターンシップは、様々な一般企業 ※関東の企業からの問い合わせもあるが、 管理ができないため、現状では実施できない。 ・情報産業企業 ・建築事務所 ・府内各自治体
事前学習	ビジネスマナー研修	有(教育実習)、コンソーシウム京都内での準備	キャリアサポートセンターのサポート 夏休み前に事前授業4回 インターンシップ終了後、報告会
事後学習	なし	有(教育実習)、コンソーシウム京都内での準備	
保険などの支援体制	学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。	学生傷害保険加入を義務付けている(大学で加入)。	学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。
課題に思われていること	採用環境が企業にとって厳しい状況になったため、インターンシップ本来の目的が失われ、中身はただの企業説明会に過ぎなかったりするものが増えてきているのが実情を懸念している。	教師以外に就職する学生のために、教諭レベルの個別のネットワークが一部必要。	参加者が少ない。良質なインターンシップ先を探すことが難しい。
今後の展開		単科大学のため教師以外の就職先を開発することは、現状では難しい。	良質なインターンシップ先を数多く見つけるため、担当教員レベルでの新規開拓を模索している。特に良質な業務を経験させてくれる中小企業と直接連携したいと考えている。
企業に期待すること		インターンシップ経験者でも、最終的に教師になる学生が多い。アルバイトのような単純作業ではなく、教師にも求められるコミュニケーション能力を身に付ける機会を提供して欲しい。	チームでの仕事の進め方や企画も重要だが、その前にまず、社会人としての意識やマナー等の基本を修得させるために、営業同行や事務を十分経験させて欲しい。
その他特色	ただの企業説明会にすぎない事例も増えていることを考慮し、「参加しておいて損はないが、もっと社会性を涵養できる活動の方が有用ではないか。」といったスタンス。 学生に対しても、近視眼的な動機で参加するのではなく、世の中や会社についての理解を深め、将来を考える材料にする本来の目的を忘れずにこの機会を利用することを心がけることを求めている。	教員養成を主とした大学であり、京都府・京都市教育委員会との連携も密であるため、教育委員会が中心となっているインターンシップを学生に紹介したりもしている。	

大学名	同志社大学	同志社女子大学	立命館大学
設立年(年)	1875	1876	1900
学生数(人)	24,034	6,328	33,013
教員数(人)	685	170	1,030
学部学科	13学部 神学部・文学部・社会学部・法学部・経済学部・商学部・政策学部・国際文化学部・生命医科学部・スポーツ健康科学部・心理学部・グローバルコミュニケーション学部	5学部・10学科 学芸学部・生活科学部・現代社会学部・表象文化学部・薬学部	13学部 法学部・産業社会学部・国際関係学部・政策科学部・文学部・映像学部・経済学部・経営学部・理工学部・薬学部・生命科学部・スポーツ健康科学部
独自インターンシップの有無	有	有	有
実施主体	キャリアセンター	キャリアサポートセンター	インターンシップオフィス
専任スタッフ(コーディネーター)	有	担当職員	職員
学部との連携の有無	全学部共通のインターンシップ制度を設けている	有	有
単位認定	有	有	有
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	・1,2年次に関西の企業の現場経験インターンシップ 3年次に東京2泊3日で官庁訪問、企業でのインターンシップを経験できるようにしている。 ・企業の実際が分かる「Trial Internship」。 ・3年次向けのキャリア形成とインターンシップ 実践の中で自分を見つめ、適職について考える。 ・学校インターンシップ	・直接協定型 ・地域型(各地域の経営者協会や商工会議書とのパイプ)	・全学インターンシッププログラム (海外インターンシップ、官公庁・行政・企業への長期インターンシップ含む) ・コーオプ演習
実施時期	8月1日～12月中旬(受入学校ごとに実習期間を設定)	夏休み	夏休み
実施期間	1日(低年次)、2週間～1ヶ月間(3年次)	8～9月(8日以上)	1～2週間、コーオプは半年程度
参加者数	応募:150名 マッチング:100名	100名～150名	学内では400件。自由応募は、正確に把握できていないが、更に400件程と推測している
主なインターンシップ先	メーカー・金融・マスコミ各種業界 京阪神を中心にして、コンソーシアム京都のインターンシップ先と重ならないようにしている。 中小企業もある。	市役所等の地方公務員 法律事務所 メーカー等	特に偏りはない。学生ニーズは大企業中心だが、大学としてはインターンシップ先で何を学べるかを重視している。
事前学習	有(前年度インターンシップ経験者との座談会など)	ビジネスマナー・職業・業界理解、レポート(2日間)	ビジネスマナー講座、目標設定、業界研究等
事後学習	有	成果発表、グループディスカッション、グループ発表(1日)	報告会、グループワーク
保険などの支援体制	学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。	学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。	学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を義務付けている。
課題に思われていること	学生がインターンシップ先を選ぶチャネル(大学の正課授業以外に、コンソーシアム京都、企業の公募等)も増えた。学生にとってのインターンシップの位置づけが変わり、一般化しつつある。学生の身にならない、行きっぱなしにならないインターンシップにならないように気を付けていきたい。	大企業とのインターンシップ協定も結びたいが、単位認定に必要な書類提出等の事務作業を敬遠されてしまうため、公募募集になっている。	不景気による影響で、受入れ先が少なくなってきている。
今後の展開	現状で大きく変える必要はないと思っている。	公募募集と単位認定できるインターンシップのバランスを取ることを考えている。	現状のシステムで機能させていく予定。
企業に期待すること	机の上のシミュレーションだけにならないように、外からでは見れない現場の経験や実際の生の経営に触れる機会を提供してもらえたらと思う。	特になし	お客様扱いというよりも、できる限り企業の一員として学生を扱って欲しい。
その他特色			

大学名	京都産業大学	龍谷大学・短期大学	佛教大学
設立年(年)	1965	1949	1949
学生数(人)	12,795	17,892	6,207
教員数(人)	360	504	213
学部学科	8学部21学科 経済学部、経営学部、法学部、外国語学部、文化学部、理学部、コンピュータ理工学部、総合生命科学部	9学部 (短大含む) 文学部・法学部・経済学部・経営学部・政策学部・社会学部・国際文化学部・理工学部・短期大学部	7学部・13学科 仏教学部・文学部・歴史学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部・保健医療技術学部
独自インターンシップの有無	有	有	有(企業と教育の両方)
実施主体	キャリア教育研究開発センター	キャリア開発部・各学部教務課	キャリア支援部キャリア開発課(2012年3月まで)
専任スタッフ(コーディネーター)	職員	コーディネートは、担当教員。キャリア開発部は、主に窓口。	窓口はキャリア支援部、現場レベルでは担当教員がコーディネート
学部との連携の有無	無	有	有
単位認定	有	有	有
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	・海外インターンシップ ・コーオブ ・企業からの公募	・体験型インターンシップ ・アカデミックインターンシップ ・長期プロジェクト型インターンシップ ・海外インターンシップ	・企業インターンシップ ・教職インターンシップ
実施時期	夏休み	夏休み	企業:夏休み(8月～9月初旬) 教職:教職(8月末～11月末)
実施期間	6種類のインターンシップがあり、科目によって期間が異なる	2週間～1ヶ月。長期インターンシップは、半年。	2週間(企業)、2か月(教職)
参加者数	約200人	800名。3年次に多いが、1,2年次でも可能。	夏106名、秋92名
主なインターンシップ先	様々なインターンシップ先があるが、中小企業の方が多い。	市役所・金融機関等	京都中央信用金庫・各中学校 京都地場産業の中小企業
事前学習	オリエンテーション、業界研究、グループディスカッション、ビジネスマナー講座等、目標設定、プレゼン	事前研修でガイダンス、事後研修で全体報告会を行っている。目的・目標設定、社会で働くことの自覚、マナー、リスクマネジメント等	オリエンテーション・ビジネスマナー講座・コミュニケーション・目標設定・人権学習等を行っている。
事後学習	グループディスカッション、報告	報告会、学んできたことのフィードバック、グループディスカッション	体験発表、研修先との意見交換
保険などの支援体制	学生教育研究災害傷害保険およびインターンシップ賠償責任保険	インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険(インターン賠)の加入を奨めている。	学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。
課題に思われていること	受入れ先の確保	1,2年次の希望者が少ない。	学生の多様化が進み、インターンシップに対する意識格差が出始めている。
今後の展開	事前学習の充実	行きっぱなしや受け身で経験するのではなく、進路のきっかけやこれからの学習意欲に繋がるようにしていきたい。	事前研修をより充実させたい。
企業に期待すること	営業・事務・企画等様々なことを体験させて欲しい。	アルバイトとしてではなく、できる限り社員と同様の扱いでお願いしたい。	社会人の自覚が芽生えるように、アルバイトとしてではなく、チームプロジェクト等でインターンシップを経験させて欲しい。
その他特色		協定型のインターンシップを実施。企業の場合は、関西の中堅中小を中心にインターンシップを実施している。大企業というブランドよりも、どのような機会を学生に提供してもらえるかで協定先を探している。	秋学期に共通科目としてインターンシップをフォローする授業を実施。その中で気付きや学びを促すようにしている。教職では、秋学期で授業とインターンシップを並行している。

大学名	京都外国語大学・短期大学	京都学園大学	京都光華女子大学・短期大学
設立年(年)	1959	1969	1964
学生数(人)	4,425	3,461	1,510
教員数(人)	120	130	62
学部学科	1学部9学科 外国語学部	5学部10学科 経済学部、経営学部、法学部、人間文化学部、バイオ環境学部	4学部7学科 キャリア形成学部、健康科学部、人文学部、短期大学部
独自インターンシップの有無	有	無	無
実施主体	キャリアサポートセンター	キャリアサポートセンター	キャリアセンター
専任スタッフ(コーディネーター)	担当職員と一部教員レベルでフォロー	職員	特になし
学部との連携の有無	有(専門性の高い語学(スペイン語、スラブ語等)は、学科レベルで実施)	有	無
単位認定	有	有	授業内でのインターンシップは、単位認定がある。
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	・体験型インターンシップ ・海外インターンシップ ・ペイドインターンシップ	コンソーシアム京都 ＋独自プログラム ・キャリアサポートセンター ・各学部内の担当教員	無
実施時期	2011年から夏休みのみに実施	6月中旬～10月上旬 (夏休みを挟んで事前事後の研修を含む)	夏休み、春休み
実施期間	10日～1カ月程度	2週間(ホテル等一部の研修先は1カ月)	
参加者数	65名(3年次に多く、1,2年次もインターンシップ可能)	特になし	把握していない
主なインターンシップ先	語学を活かせるインターンシップ先 (ホテル、大使館や領事館等)	京都信用金庫 京都中央信用金庫 亀岡市役所 販売店やディーラー ホテル	・コンソーシアム京都を通じたインターンシップ ・各地方の経済団体の応募によるインターンシップ (地元での就職を望む学生を対象) ・授業の一環として、先生のネットワークを通じたインターンシップ
事前学習	オリエンテーション、ビジネスマナー講座、プレゼン、事前フィールドワーク等	ビジネスマナー講座・プレゼンテーションスキル講座等	カウンセリング等 単位認定のある授業内では、事前事後のケアがある。
事後学習	プレゼンによる成果発表	有	
保険などの支援体制	学生教育研究災害傷害保険(インターンシップ特約付)	学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。	学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。
課題に思われていること	採用に直結するインターンシップを4年生のために実施できたらと思っている。	不景気下で、協力してくれる企業が少なくなっているが、大学としてはより多くの機会提供を求めている。	コンソーシアム京都のインターンシップ制度では、希望のインターンシップ先へ行けないことがある。大学独自のインターンシップが課題であると考えている。
今後の展開	語学を活かせる海外展開をしているメーカーや商社の新規開拓	インターンシップ先で、経営のより本質的な部分に関わる経験を学生に積んでもらえるようにしていきたい。	大学独自のインターンシップ制度の構築
企業に期待すること	地元企業の活性化	人材育成の観点から、大学との連携は企業側にもメリットがあると考えている。その点のを認識してもらえたらと思う。	インターンシップでは、課題を設定し、チームでの仕事の進め方を学べる機会を提供して欲しい。そのようにインターンシップを進めてもられば、大企業か中小企業かは、こだわらない。
その他特色	・ペイドインターンシップは、短期大学1年次に実施する有給のインターンシップで、1月～3月に実施。 ・コンソーシアム京都との棲み分けを念頭に、語学力を活かしたインターンシップ先をメインに運営している。		

大学名	京都女子大学・短期大学	京都精華大学	京都橘大学
設立年(年)	1965	1968	1967
学生数(人)	5,447	4,189	2,766
教員数(人)	146	180	112
学部学科	6学部16学科 文学部、家政学部、法学部、発達教育学部、現代社会学部、短期大学部	4学部10学科 人文学部、マンガ学部、デザイン学部、芸術学部	5学部・10学科 文学部・人間発達学部・現代ビジネス学部・看護学部・健康科学部
独自インターンシップの有無	有	無	有
実施主体	キャリアセンター		キャリアセンター
専任スタッフ(コーディネーター)	職員		業務担当者の対応
学部との連携の有無	有		学生委員会の教員との連携
単位認定	有		有
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	・コンソーシアム京都 ・協定型プログラム ・公募推薦型プログラム		コンソーシアム京都 企業の公募
実施時期	夏休み		夏休み(8月1日～9月下旬)
実施期間	1週間、中には1カ月。公募型は、2回生も可能、単位認定は3年次。		10日以上
参加者数	50名～80名		去年度30名程、2011年50名程(年によつてのバラつきがある)
主なインターンシップ先	行政・公共機関 OBが出身者の多い企業		・サービス業を中心とした一般企業(近畿日本ツーリスト・京都中央信用金庫など) ・図書館司書(京田辺市立中央図書館・精華町図書館など) ・文化行政を携わる公務員(岡山市役所文化振興課・京都市役所文化市民局文化財保護課) ・非営利組織(京都芸術センター・京都市女性協会・NPO法人山科醍醐こども広場など)
事前学習	ビジネスマナー講座・実習中の巡回指導		基礎研修(業界・会社研究) ビジネスマナー講座 担当教員、ゼミや学生委員の教員による事前面談
事後学習	事後発表会		教員とのフィードバック面談 実習経験交流 体験報告会の後、選抜されたレポートの報告会
保険などの支援体制	入学時に加入する団体保険で対応する。		学生教育研究災害傷害保険(インターンシップ特約付)
課題に思われていること	協力してもらえる企業が少ない。お願いをしている状況なので、インターンシップを来年も継続してもらえるか不透明。		マッチングに課題がある。学生の希望先ではなかったインターンシップ先への関心や主体性をどう持ってもらうか。
今後の展開	新規開拓によって、受入れ先を増やしたい。		マッチングの改善と受入れ先の新規開拓
企業に期待すること	教育の一環としての理解してもらい、目的や意味の分かりやすい仕事の与え方を願いたい。		学生からの感想を聞いていると、アルバイトの位置付けとしてインターンシップが実施されていることが多く、できる限り正社員に近い扱いで実施してもらいたい。
その他特色		サイト内にインターンシップ専用のページはないが、海外インターンシップや学部独自のインターンシップなど用意されている。しかし、キャリアセンターなど一括に管理されている部署がないため、情報公開もバラバラで統合された情報はない様子。	企業規模よりも、インターンシップの趣旨を理解してくれる企業や学生に良い経験の場を提供してくれる企業との関係を大切にしていきたい様子。

※繁忙期のため調査不可

大学名	京都ノートルダム女子大学	京都文教大学・短期大学	種智院大学
設立年(年)	1961	1996	1949
学生数(人)	1,484	1,923	459
教員数(人)	70	65	27
学部学科	3学部・4学科 人間文化学部・生活福祉文化学部・心理学部	2学部 臨床心理学部、総合社会学部	1学部・2学科 人文学部
独自インターンシップの有無	有	有	無
実施主体	キャリアセンター	キャリアサポート課	無
専任スタッフ(コーディネーター)	担当職員と教員	担当職員と教員	無
学部との連携の有無	無	無	無
単位認定	有	有	無
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	就業力を自己開発する 実践キャリア教育の実施	・学び実感型インターンシップ ・企業でのインターンシップ ・2年次に文化人類学科で1週間の中国インターンシップを実施。	コンソーシアム京都のみ
実施時期	夏休み	夏休み。福祉や児童養護関係は、12月に実施。	
実施期間	1週間～2週間	2週間	
参加者数	25人(2,3年次対象)		
主なインターンシップ先	・アパレル、製菓、出版、IT、美容、ホテル、地銀、その他サービス等、地銀、地銀 ※HPより転載 京都シネマ 如月社、日本ドリコム、ビジネスプラスサポート、平安神宮、京都国際マンガミュージアム、キイストン、ワイズプラス、インテリジェンスオフィス、クレオ大阪、高見、琵琶湖汽船、本家ハツ橋西尾、アトリエドール、花工房、グランドプリンスホテル京都、京都ブライトンホテル、ホテルグランヴィア、ウェスティンホテル大阪、リーガロイヤルホテル、京都国際ホテル、ラフォーレ琵琶湖、ホテルフジタ京都、京都銀行、京都信用金庫、びわこ銀行、日本経済新聞社、ジュンク堂書店、京都府教育委員会・京都美山高等学校・成基コミュニティ、ANAグループ、日本航空インターナショナル	京都市営保育所、児童養護施設、ホテル・サービス業界、宇治の商店街、OBの務める企業	
事前学習	マナー、コミュニケーション	ビジネスマナー講座・目標設定、事前レポート	
事後学習	業務日誌の提出、レポート、成果報告会でのプレゼン	事後レポート	
保険などの支援体制	学生教育研究災害傷害保険(インターンシップ特約付)	学生教育研究災害傷害保険(インターンシップ特約付)	
課題に思われていること	インターンシップ先によって、経験させてもらえる内容にバラつきがある。	2回生の応募が少ない。学びとどう結びつけられるかが課題。	
今後の展開	学生に充実したインターンシップを経験してもらえるよう、企業との擦り合わせ大切にしていきたい。	受入れ先を一定数確保するためにも、コンソーシアム京都のインターンシップを重点的に活用できる仕組みに移行していきたい。	導入検討中
企業に期待すること	学生の職業観が育つように、製造現場のような、普段外から見えにくい場で経験を積む機会を与えて欲しい。チームでの課題解決のための仕事や他大学のインターンシップ生と交流する機会も大切と考えている。大企業からの機会提供も望んでいる。	アルバイトとしてではなく、企業の一員として学生を使って欲しい。受入れ内容等のすり合わせをより具体的にしたい。	学生が、卒業後のキャリアイメージを描けるような、機会を提供して欲しい。
その他特色	キャリア形成実践科目の「インターンシップ」は、目標とする職業に近づくチャンスです。企業などで就業体験の実習に取り組むことで、社会の厳しさや難しさを学ぶことはもとより、一般常識の習得、さらにはコミュニケーション能力や積極性の重要性を実感し、明確なキャリア意識の確立をめざします。	キャリアサポート課の就職委員会でインターンシップを受け持ち、単位認定も行っている。	インターンシップを導入した場合、企業規模よりも、学生が将来像を描けるような内容重視で進めていきたい。

大学名	成美大学・短期大学	花園大学	平安女学院大学・短期大学
設立年(年)	2010	1949	2000
学生数(人)	267	2,430	548
教員数(人)	103	68	40
学部学科	2学部 (短大含む) 経営情報学部・短期大学部	2学部・8学科 文学部・社会福祉学部	4学部 (短大含む) 国際観光学部・子ども学部・生活福祉学部・短期大学部
独自インターンシップの有無	有	有	有
実施主体	キャリアサポート室	就職課	キャリアサポートセンター
専任スタッフ(コーディネーター)	教員レベルでのコーディネート(キャリアサポート課の担当業務を兼任)		
学部との連携の有無	有		
単位認定	有	有	有
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	学生に希望調査を取り、教員がインターンシップ先につなぐ形を取っている。学生主体の選択ができるようにしている。		・ビジネスインターンシップ ・保育所インターンシップ ・学習支援アドバイザー ・学校支援ボランティアなど。 高槻市教育委員会、京都市教育委員会との間に協定を締結し、教育現場での実践機会が多い。
実施時期	3回生の夏休み		
実施期間	2週間		
参加者数	5～6人	28名(2005年)	
主なインターンシップ先	市役所、商工会議所、書店、OBが務める中小企業	企業、財団法人、社会福祉法人、医療法人など	
事前学習	ビジネスマナー、プレゼン等を授業の中で実施	有	
事後学習	成果報告や発表をゼミの中で実施	有	
保険などの支援体制	学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。		
課題に思われていること	インターンシップの授業を取る学生が少ない。		
今後の展開	コンソーシアム京都のインターンシップを取り入れることを検討中。		
企業に期待すること	充実したインターンシップとなるように、大学との連携を意識して欲しい。		
その他特色	サイト内にインターンシップ専用のページがないが、ビジネスデザイン学科ではビジネス・インターンシップが実施され紹介されている。ビジネスデザイン学科での取り組みが前面に出ており他学部での取り組みは不明。		

※繁忙期のため調査不可

※電話調査不可

大学名	京都府立医科大学	京都市立芸術大学	池坊短期大学
設立年(年)	1872	1969	1952
学生数(人)	940	965	281
教員数(人)		96	18
学部学科	1学部2学科 医学部、看護学部	2学部5学科 美術学部、音楽学部	2学科 文化芸術学部、環境文化学部
独自インターンシップの有無	有	無	有
実施主体	看護実践キャリアセンター	教務学生支援室	学生支援部
専任スタッフ(コーディネーター)	同センター・看護学科・病院看護部	同室学生支援担当	担任教員・職員
学部との連携の有無	無	無	無
単位認定			有
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	インターンシップサマープログラム	コンソーシアム京都のみ	未来サポートプログラム
実施時期			夏休み
実施期間	1日	実習先により異なる	2週間程度
参加者数	特になし	特になし	10名前後
主なインターンシップ先	各病院等		提携企業 (花屋、お菓子屋等のサービス関係が多い)
事前学習		無	ビジネスマナー講座等
事後学習		無	グループでフィードバック、業務の日誌提出
保険などの支援体制		学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。	学生教育研究災害傷害保険(インターンシップ特約)
課題に思われていること			受入れ先
今後の展開			受入れ先の開拓
企業に期待すること			アルバイトとしてではなく、社会人としての自覚が芽生えるような実習内容の提供をお願いしたい。
その他特色	各病院等のインターンシップ活動について迅速な情報提供を行い、必要な事務手続きの迅速対応により、学生の就職活動を支援することを京都府公立大学法人平成23年度年度計画で述べられている。産学連携の独自プログラムの中に学生を導入していることも多い。		学部内のコースだてのものと学生支援部主体のものと2本立てで実施している。 10年間実施。 4.5年前に文科省が学生支援機構からインターンシップの実施先企業ということで、推薦リストのようなものを頂いて、提携先を開拓した。

※電話調査対象から除外

大学名	大谷大学・短期大学	京都医療科学大学	京都華頂大学・短期大学
設立年(年)	1901	2007	1953
学生数(人)	3,483	184	775
教員数(人)	98	21	12
学部学科	2学部11学科 文学部、短期大学部	1学部1学科 医療科学部	1学部1学科 現代家政学部
独自インターンシップの有無	有	無	有
実施主体	キャリア支援センター・教職支援センター	就職課	進路支援課
専任スタッフ(コーディネーター)	指導教員1名 と 職員1名	職員	なし(進路支援課・教員・学部連携)
学部との連携の有無	有	無	有
単位認定	有		有
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	・大谷大学プログラム ・学校プログラム(科目)	・医療機関での臨床実習が中心	正課カリキュラム 2年:専門ゼミナール(必修) 3年:卒業演習(選択制) 専門ゼミナール秋学期15回授業後、インターンシップ実施→単位認定は3年生。 専門ゼミナールから卒業演習への接続有り。
実施時期	夏休み(事前学習6月～実施8月～事後学習10月)		2～3月
実施期間	2週間	2ヶ月(2、3、4年生でそれぞれ行う)4年生での実習が重要。	5日間
参加者数	18名(主に3回生、2回生が一部)	生徒全員(卒業要件になっている)	(来年度から実施)
主なインターンシップ先	提携企業・附属校等 (広告、小売、福祉等様々)	国立病院などの医療機関(卒業生の就職先が多い)	一般企業(業種は絞らず、就職実績等考慮し京都の企業中心)・保育施設・幼稚園等専攻と直結した実習先
事前学習	インターンシップの意義、ビジネスマナー、リスクマネジメント、目標設定	事前学習として、情報教育と臨床分野の専門学習を行う。	・将来像を考えさせる ・社会人の基礎を身につけさせる
事後学習	振り返りと今後の学生生活の展望		・意欲の方向性を見つける
保険などの支援体制	学生教育研究災害傷害保険と通勤時の傷害に対応した民間保険	学生保険、事故保険に加入する。	
課題に思われていること	受入れ企業が少なくなっている。これまでのプログラムを現状に合わせて修正する必要がある。		(来年度から実施)
今後の展開	受入れ先の新規開拓とプログラム内容の調整		(来年度から実施)
企業に期待すること	社員と同じような実務経験を積む機会を提供して欲しい		本格的取り組みが初めてなので、企業の方が慣れていると思う。今後必要なことなど検討していきたい。
その他特色		卒業生が就職している機関に実習に行くと、同窓生ということで、深い学習ができる。	

※電話調査対象から除外

大学名	京都工芸繊維大学	京都経済短期大学	京都嵯峨芸術大学・短期大学
設立年(年)	1949	1993	1971
学生数(人)	3,064		763
教員数(人)	299		47
学部学科	1学部3学科 工芸科学部	1学科 経営情報学科	2学部2学科 芸術学部、短期大学部
独自インターンシップの有無	無	無	有
実施主体	学生支援センター	学生支援課	キャリア支援課
専任スタッフ(コーディネーター)	教員		業務担当職員(3名)
学部との連携の有無	無	無	有
単位認定	有(1週間1単位)		有(24年度から)
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	コンソーシアム京都 企業公募	コンソーシアム京都のみ	デザインを内容としたインターンシップ
実施時期	インターンシップ先による		夏休み
実施期間	〃		2週間
参加者数	100～120人		10名前後(3年次メイン、一部2年次)
主なインターンシップ先	理系専門大学のため、各専門科目と関係のある企業		デザイン会社 広告代理店 雑貨・工芸製造会社 模型作製会社 文具卸売会社
事前学習			マナー講座、プレゼンスキル、事前レポート提出
事後学習			報告会、プレゼン発表、反省
保険などの支援体制			学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。 ※入学時に加入
課題に思われていること		短期大学であるため、現行のカリキュラムで独自インターンシップを実施する時間的問題がある。また、企業の受け入れ先開拓。	オリエンテーションでの対応だったが、単位認定と事前・事後学習、インターンシップ先と学生のマッチングが課題。
今後の展開			上記の課題解決を進めて行く。
企業に期待すること	社会人としての自覚を持てるような、機会の提供をお願いしたい。	アルバイトとしての扱いではなく、チームでの仕事の進め方等を学ぶ機会提供をお願いしたい。	インターンシップへの協力企業が増えて欲しい。
その他特色	企業と大学が連携した独自の人材育成システムの中にインターンシップを組み込んで運用しているプログラム(サステナブルデザイン育成プログラムや川下り方式インターンシッププログラム)のファイルがアップロードされていたが、現在でも運用されているかは不明。 理系の大学であるため、インターンシップよりも産学連携での研究活動等に学生を導入することに力を入れている模様。 教員の推薦を受けて、企業面接を通ったと学部生が、大学院のインターンシップ制度を利用することができる。中小企業のインターンシップ先有り。		中小企業中心のインターンシップ。

大学名	京都西山短期大学	京都聖母女子短期大学	京都造形芸術大学
設立年(年)	1950	1962	1991
学生数(人)			3,061
教員数(人)			202
学部学科	1学科・2専攻 仏教学科	2学科 児童教育学科・生活科学科	1学部・13学科・34コース 芸術学部
独自インターンシップの有無	無	有	有
実施主体		キャリアセンター	各学科
専任スタッフ(コーディネーター)		業務担当職員 と 担当教員	教員
学部との連携の有無		有	有
単位認定		無	有
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	コンソーシアム京都のみ		正課の授業として実施
実施時期		夏休み	授業によって様々
実施期間		2週間	〃
参加者数	0人	10人前後(一部1年生)	150名(3年次がメイン、一部2年次)
主なインターンシップ先		金融、サービス	デザイン会社 広告会社
事前学習		心がけやマナー(担当教員が実施)	希望者のみに別途授業を用意している
事後学習		振り返り	〃
保険などの支援体制		学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。	協定先の会社と学生教育研究災害障害保険および学研災付帯賠償責任保険の加入を義務付けている。
課題に思われていること	希望が少ない学生への新規導入が難しい状況にある	受入れ先の新規開拓	専門色が強いため、学科や興味を持つジャンルによって、インターンシップに繋げることができない生徒がどうしても出る。
今後の展開		マッチングの精度を上げ、就職に結びつくようなインターンシップにして行きたい	美術関係以外の会社のインターンシップ先の開拓は、難しいが必要という認識。
企業に期待すること	コミュニケーション力、プレゼンや文章等の表現力を学ぶ機会の提供	アルバイトとしてではなく、現場業務を肌で感じれるような機会の提供をお願いしたい	協定に沿って、インターンシップを実施して欲しい。
その他特色			・公募型のインターンシップでも40時間以上等の一定の要件を満たす場合、キャリアデザインセンターで単位認定する制度がある。 ・中小規模の会社が主な受入れ先。

大学名	京都薬科大学	成安造形大学	明治国際医療大学
設立年(年)	1949	1993	1983
学生数(人)	1,586	865	701
教員数(人)	92	53	126
学部学科	1学部1学科 薬学部	2学部・3学科 芸術学部・造形学部	3学部 鍼灸学部・看護学部・保健医療学部
独自インターンシップの有無	有	有	
実施主体	進路支援課	キャリアサポートセンター	
専任スタッフ(コーディネーター)		職員	
学部との連携の有無		有	
単位認定			
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル	主に製薬会社へのインターンシップ	無	
実施時期	7～8月の夏期休暇		
実施期間	3～5日程度	実習先により異なる	
参加者数		実習先により異なる	
主なインターンシップ先			
事前学習	普段の学習と事前講習	事前学習、インターンシップ、事後学習がセットになっている。	
事後学習			
保険などの支援体制		学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険への加入を奨めている。	
課題に思われていること			
今後の展開			
企業に期待すること			
その他特色	将来の志望進路に即した就業体験を行うことで、日ごろの学びの成果を現場で確かめるとともに、仕事に対する具体的な知識や薬剤師の職域、職業適性への理解を深めます。また、社会人としての責任感や職場での人間関係を、今後の就職活動に生かすことも可能である。		求人先が医療関係機関が多く、夏休みを利用し、求人先へ見学や研修することができる制度は存在。

※電話調査対象から除外

※電話調査不可

※電話調査対象から除外

大学名	大阪芸術大学(芸術学部)	大阪医科大学	放送大学 京都学習センター
設立年(年)			
学生数(人)			
教員数(人)			
学部学科			
独自インターンシップの有無	有		
実施主体			
専任スタッフ(コーディネーター)			
学部との連携の有無			
単位認定			
プログラム キャリアサポートセンター 学部・学科レベル 授業レベル			
実施時期			
実施期間			
参加者数			
主なインターンシップ先			
事前学習			
事後学習			
保険などの支援体制			
課題に思われていること			
今後の展開			
企業に期待すること			
その他特色			

※電話調査対象から除外

※電話調査対象から除外

※電話調査対象から除外

(3) 対企業

概 要

いわゆる大企業にはない中堅・中小企業で働く強みとして、①「京都で働きたいという地域への思いが強い」、②「経営者や社員同士とのコミュニケーションが取りやすい」、③「入社後早い段階から責任ややりがいのある仕事を任せてもらえる」ということが挙げられる。

そこで、本研究会では、現在実際に中堅・中小企業の第一線で働く新入社員を対象に、就職活動前、就職活動中に、現在にいったいどのような気持ちの変遷があったのか（あるいはなかったのか）、「就職活動に関するインタビュー調査（新卒社会人向け）」（調査票は別紙参照）を行った。

調査時期は平成 24 年 2 ～ 5 月。

就職活動に関するインタビュー調査（新卒社会人向け）質問票

インタビュー内容は本調査の目的以外には使用しません。また、企業名や個人名が特定される情報は公開いたしません。

<就職活動前>

- 1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。
- 1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。
- 1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。
- 1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

<就職活動中>

- 2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。
- 2－2・中堅・中小企業を就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。
- 2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。
- 2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思えますか。
- 2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

<現在>

- 3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。
- 3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。
- 3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

（「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと）

※以下の項目は、調査の集計上必要な項目ですが、非公開とします。

実施日時		性別		年齢	
調査対象企業名					
業種					
対象者の担当業務					

A 社

(業種：不動産仲介業／調査対象者の担当業務：部屋探し・契約書作成等仲介業務／性別：男性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

マスコミ・新聞記者希望。メディアの力に憧れがあった。不動産業界には元々イメージが悪かった。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

佐賀県出身。大学から京都へ来た。就職活動を行うには交通費等の負担が大きい。4回生の夏場からマスコミ業界から志望業界を変更するにあたり、京都の企業へ絞っていった。地域にこだわるよりも、記者職にこだわった。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

中堅・中小企業は任せてもらえる仕事量が多い。新聞業界の就職活動では、リクナビや新聞を利用し、同じ記事の読み比べを行った。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

両親や友人に特に相談しなかった。何事も自分で決めていくタイプ。キャリアセンターや就職課の利用は、情報収集ついでに相談へ行ったが形式的なものだった。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

社長との対談。企業を見ていく上で社訓を見ていた。社長が仰っていたことに共感できる部分があった。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思えますか。

中堅・中小企業は良くも悪くも、社長や経営層のカラーが全てとを感じる。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

エントリー数100～200社。半分以上マスコミ。10月末に内定。

<現在>

3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

2～3月に内定者研修があり、アルバイトとして先輩社員の話を聞いていたのでイメージはついてた。入社してみると、上司や先輩、現場によってカラーが違うこともあると気づいた。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

仕事内容やその仕事はどう社会に発信していくのか、そこをポイントに探していた。その

点、不動産業界は、情報を取捨選択してお客様がうまくのっかってくれるとやりがいを感じる。

**3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。
(OB訪問・リクルーター・情報媒体等)**

更問) インターンシップについて

3回生時に、3日程度の短期型インターンシップに参加。志望しているマスコミ業界でも事業によって内容が違うなど、仕事を知る良い機会だった。アルバイトやサークルの経験も、今の仕事に活かせる部分があると感じている。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)
できればOB訪問等を行い、業界のカラー等事前に色々話を聞いた方が良い。また、自分がどう働きたいのかのライフスタイルも考えて条件面も確認する必要がある。

B 社

(業種：書店／調査対象者の担当業務：ビジネス書担当／性別：女性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

就職活動時期が遅く、何をしたらいいのかよくわからなかった。そんな中、好きなこと、興味のあること、また実現可能なことから漠然と職選びを始め、読書が好きということで書店・出版社等を検討していた。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

出身が京都ということもあり、最初から地元京都での就職を希望していた。もし東北で働いたら……ということも考えてみたが、就職は1年2年の話ではないので、現実的な問題として身近で地元である京都は働く場としてイメージしやすく魅力的だった。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

元々、大手志向ではなく規模にこだわりはなかったので、中堅・中小企業には興味・関心を持っていた。B社（書店）は、場所が京都で、しかも自身が読書好きということもあって、日常的に通っていた。そこで、ふと働く姿をイメージした時、本を直したり、渡したり、そんな姿を容易にイメージすることができた。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

京都出身なので、地域に根差した活動をしている企業に囲まれて過ごしてきた。その様な土地柄に慣れ親しんでいるせいもあり、自然と中堅・中小企業には親しみを感じていた。また、京都のイメージは中堅・中小企業ということは自ら体得したので、中堅・中小企業のイメージもまた京都という風になる。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

(既に前項で回答済)

2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。

職選びの1つのポイントとして、「長い目で見た時に、長く働けるところを選ぶ」というこだわりを持っていた。その条件と照らし合わせると、B社は色々なところで手広く事業展開をしているし、また同時に地域に根差した活動をしているという点が自分の条件にぴったりだった。個人商店は時世もあって、もし経営が苦しくなってしまうと、店を閉じることになりかねないので、ロングスパンでの就職を考えた時には、選択肢の中には入らなかった。そのようなことを考えるとB社クラスの中堅・中小企業より規模の小さいところは、正直決めにくいといえる。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

20～30社の企業にエントリーした中で一番最初に内定が出たのがB社だった。一種の直感だが、縁を感じ入社に至る。

2-4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思いますか。

2-5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

20～30社の企業にエントリーした中、面接まで行ったのは出版社・小売を含む10社。正式な企業訪問というよりはむしろ、客として自ら足を運び視察していた。店舗の雰囲気を見比べていく中で、共通点・違いを発見するのが面白かった。

<現在>

3-1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

本が読めないということ。本屋に就職したのに、大学生のときの方が本を読んでいた。しかし、それ以外のことは、ほぼギャップを感じない。なぜなら、選考の最終段階で、マッチングを図るために4、5日約20時間試用期間として働き、また、入社前には研修を兼ねた2カ月間のアルバイトを経てきたからである。周囲では、ギャップを感じ、すぐ辞めてしまうということも実際に起こっている中、このような措置は非常に効果的であるといえる。囲い込みは好ましくないが、学生はインターンシップ等の活用、企業は試用期間を設ける等、両者がマッチングを図り選択していくことが重要である。

3-2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

B社に入ったからこそ実現できたと言えることは、色々なことが自由にできるということ。売れ行きが良くても、悪くても棚を任せてもらえる。また担当の棚は、各々の裁量で発注の調整、また本の配置を決めることができる。お客様に見てもらえるように、ポップを作成したり様々な工夫を凝らし担当の棚の本の売れ行きが伸びた時、「やった!」と思う。また、ダイレクトな手ごたえを感じることができ、このようなことは大手では難しいと思われる。(実際に、X書店では区画整備がなされており、このような自由な動きは見られない。)また、B社のY店は、できたのが最近ということもあって、店舗のカラーを現在作っている段階である。京都駅に隣接する立地ということで、地元のお客様だけではなく、外部から来られたお客様にも立ち寄ってもらえるような雰囲気作りを目指している。

3-3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。

(OB訪問・リクルーター・情報媒体等)

現在の学生はインターネットを介して企業検索をする(自身もマイナビ・リクナビを利用。B社はリクナビのみ掲載)。高額な広告料は中堅・中小企業には負担となるが、広告費がかけられなくてもホームページに採用情報を載せるなど工夫しながらアピールをしていくべき。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

不安を煽る情報に惑わされないように。書籍等で情報収集・マナー等の事前準備をし、先入観で職選びをしないように心がけて欲しい。B社のような中堅・中小企業にも目をむけて欲しい。

C 社

(業種：精密機械製造／調査対象者の担当業務：開発部研究員／性別：男性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

工学部から大学院進学は初めから決めていた。工学部応用物理学出身。修士1年の秋時点では絞っていなかった。映画や特撮が好きだったことから、舞台のレーザーの演出等に興味があつた。そこで光関係の分野で考えるようになった。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

札幌出身。京都は伝統工芸に強く、就職活動をする中で技術系で大きな企業があると気づいた。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

漠然と大企業のイメージがあつた。就職サイトでは中堅・中小企業の情報がない。当社は、マイナビで検索した。他県からの就職活動ではWEBに掲載されないとひっかかってこない。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

キーワードとしては、仕事内容を重視。専門分野や研究が取り組めるところというイメージ。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

(前項にて回答済み)

2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

逆風になったところは全然ない。自分のやりたい事は札幌ではできない。研究室も放任で、むしろドクターに誘われた。自分自身の評価のためには社会に出ないといけないとの思いがあつた。社会人として認められたかった。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

開発体制。他社と比べて勢いと熱意を感じた。説明会等では、他社はリクルート担当や若手社員が出てくる中、トップの話を直接聞いた。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思えますか。

人事やトップの印象は特にならない。当社では、トップが前面に出ていた。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

推薦制度あり。3～4月の説明会で20社程度学校に来る。関東18社、関西2社。関西からの企業も東京で説明会開催。採用試験10社。最終面接まで3社。内定7～8月。

<現在>

3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

いい点としては、思っていたよりもずっと早く仕事を任されている。マイナスのギャップ

としては、会社は意外としっかりしていない。これからできるのかもしれないが、出勤管理や裁量労働など手順が色々。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

自分が直接受ける上司の姿を見て、十数年後には自分がこうできるのか、1人で色々なジャンルをこなす姿を見ると憧れる。トップは頻繁に顔を出すので、コミュニケーションはある。主任レベルになると頻繁に会議もあるので近い印象。

**3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。
(OB訪問・リクルーター・情報媒体等)**

情報の出し方に工夫が必要。現状では、仕事内容よりも住環境やキャリアデザインに注力されている。技術者にとっては何ができるのか。ここが重要。何をする会社か全面に出した方がいい。中身をしっかりと伝えることが大切。

更問) インターンシップ経験

経験なし。入らないとわからないことも多い。ものづくりの会社においては、直接手を動かす経験は仕事の喜びややりがいを見る一つ。製造業の楽しさや、ものを作り上げる楽しさを知ってもらいたい。工場が真下にあると設計や開発と意見もすぐできる。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

就職活動をなめない。真面目にやることが大事。面接は難しいので、推薦を過信してはいけない。技術者の仕事、技術の道は大変。技術は進歩していくものなので、覚悟して進む必要がある。好きじゃないとできないこと。

D 社

(業種：人材派遣／調査対象者の担当業務：営業／性別：男性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

活動初期においては職種等を限定せずに、時間を見つけては説明会に参加していった。その足を運ぶ中で徐々に希望するものが見えてきた。就職活動中に無知な自分に気がつき、それが自己分析を進めるきっかけとなった。主に活動媒体としてリクナビを使用し、人の成長に寄与する人材派遣の職業に徐々に絞られていった。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

はじめの配属は大阪で、次に京都に転勤した。京都への特別な思い出はなかったが、母校の大学が位置するので、身近には感じていた。就職活動自体は地域を絞らずにやっており、中でも日本の中心、東京で働きたいという憧れは当時からあった。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

関心は就職活動中に芽生えていった。企業活動の知識を追っていくうちに、大企業とは違う、実力を持っている企業がいくつもあることを知った。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

特別なイメージはなく、大企業のあとに実力のある企業というイメージでエントリーをしていった。その情報はリクナビで公開されている企業形態を調査したもの。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

人材紹介の業種を軸にエントリー・書類選考・面接という一連の流れの中で、絞られていった。その選考にかかわる人事の方の生き生きとした表情から、一層に魅力を感じた。

2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

追い風も逆風もなかった。なぜなら誰にも相談せずに就職活動を進めていたからです。両親にも、友人にも、信頼をおいてもらっていたからこそ、相談せずに進めていった。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

専務と自然に話せたこと。専務が腹を割って話してくれた、そして彼の将来の夢に真剣に耳を傾かせて、会社の事業を彼の夢(対人の育成)に託してもいいと真剣に語る、専務の熱意が存分に伝わったことが、企業に就職したいと思った。社長の意志を告いでいる専務を通して、会社には力があることを実感した。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思いますか。

就職中では見えてこなかったが、企業に入ってからわかったことは、人との距離が近いこと。オフィスワークで直属の先輩のレスポンスが迅速で、且つ、考える時間を与えてくれる。飲み会の席でも社長や専務の距離が近く、向き合って話してくれることが一番の中堅企業の特色です。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

100社近くのエントリーから、説明会に足を運んだのは80社、選考に進んだのは50社ほど。また、実施したインターンシップは専攻の経営学部直結のものではなく、かつ短期間であったので、実感はわかなかった。（具体的な企業訪問は言及なし）

<現在>

3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

ギャップはなかった。リーマンショック後の入社だったので、働くという覚悟があった。それがギャップを感じさせない要因だったのかもしれない。当時は、社会が一丸になって乗り越えなければいけないという緊張があった。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

最終面接で専務とのやりとりで、既に信頼がおけた時に成長できると感じていた。面接では、人材派遣と異なるフィールドで働きたかったことを正直に告げたにもかかわらず、自分の将来を尊重してくれた。将来的に会社の方向性を担うことが期待されていたことに、信頼感があった。現在の成長は、つながりを大切にする京都で認められ、自らの営業で顧客の信頼を得ること。顧客とのやりとりでは、企業の良さの情報いかに伝えるかが焦点になっており、その営業を評価されることと、人の人生を背負う仕事で感謝されることは、至極の喜びである。

3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。 （OB訪問・リクルーター・情報媒体等）

人材派遣を通して感じることだが、紹介者として学生を多く扱うこの企業では、派遣先でのミスマッチが課題である。これは採用活動についても同様で、京都全体で解決していくべきではないだろうか。また、職業形態の魅力を情報化するのは困難で、採用側にはその情報化する能力の改善が求められているのだろう。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

（「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと）

多くの企業を見て、企業を選んでほしい。諦めず最後まで、自分の信念を貫くことが求められているのではないだろうか。

E 社

(業種：信用金庫／調査対象者の担当業務：窓口／性別：男性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

色々な業界を見て勉強しながら自己分析しながら探していた。説明会以降に金融業界に絞った。中小企業を金融面から支えたい、という思いと京都のために何かしたい、と思っていた。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

京都出身。京都で働きたいという思いは強かった。

1－3・当時、中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

1－4・中堅・中小企業について、そもそもどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

漠然と、大企業の下請け。大企業のために何かを作っているイメージ。縁の下の力持ち。

(→現在) イメージは変わらない。中堅・中小企業の方はこだわりを持っていらっしゃる人が多い。ローカウンターでじっくり話をさせていただける。

更問 ・目指す先輩像

一人のお客さんと親密になれる。絶対の信頼を置いていただけるようになりたい。

・情報源

就活サイト (リクナビ・マイナビ) ・アルバイトの先輩

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、メガバンクではなく信用金庫を選択肢として考え始めましたか。

(前項にて回答済)

2－2・信用金庫を就職先として考える上で、何かネガティブに感じる要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。

全国で働くよりも、京都で働きたかった。周りの声に左右されることはなかった。自分で決めたことに言い訳はしたくない。そういった精神は、スポーツの練習から培われたものがある。

更問 ・大学時代の学び

経済学部卒。経済・金融に関する触りがあったので入りやすかった。経済情勢に敏感になる習慣ができた。

2－3・最終的に内定を受諾した決め手となった要因は何ですか。

金融機関の中から選択するにあたり、「中小企業を支えたい」「誰も気づかないところから企業を支えたい」という思いが強かった。

2－4・就職を決めるまでに、信用金庫(他行を含めて)を訪問するなど直接お話をお聞きする機会はありましたか。

OB訪問というよりは、支店訪問。柔らかなイメージで、人がいいなと思った。挨拶など一番声が出ていたところに魅力を感じた。

エントリー登録300社程度。知っている企業・事業内容に共感できる企業30～50社程度。
エントリー20～30社程度。面接15社。内定4社。

<現在>

3－1・入社から現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

提案するにはまだまだ勉強が必要と感じている。

更問 ・トップと直接話せる機会について

直々に支店の職員の話聞いて頂ける機会は、ストレートに伝えられるのでありがたい。

更問 ・他の誰にも負けない点

72名の同期の中で謙虚さ、親しみやすさは負けない点。自然と身に付いたものではないか。
ローカウンターでお客様と接する点では謙虚さが生きてくると思っている。

3－2・入社して、信用金庫だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

(前項にて回答済)

3－3・信用金庫の魅力発信や採用活動について、採用する側として改善すべき点があれば聞かせてください。

じっくり話を聞いていただける場があればいいのではないかな。

更問 ・学生時代にE社と接点を持つことについて

学生時代は考えもしなかったことなので、機会を逃していたかもしれない。就職活動前から知ってもらう機会があればなお良いと思う。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

自己PR、自己分析にとらわれすぎて、「特別なことをしてこなかった」と不安になる必要はない。自分が生きてきた道をたどればターニングポイントが見つかるので、そこをピックアップするなど、自分のやってきたことを見つめ直すことが大事。そこから掘り下げて、やりたいことにつなげていけばいいと思う。

F 社

(業種：電子部品製造／調査対象者の担当業務：開発部＝技術職／性別：男性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

高等専門学校から3年次編入で大学へ。7年間理系。就職活動の時点でエンジニア・技術職以外考えていない。理系のオールジャンルを扱ってきた。機械・電気・ソフトウェア3つの分野の架け橋になりたい。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

出身は香川県。初めて来たときから京都が大好き。町並みに文化が溶け込むこの町が大好き。日本文化の原点。いずれ地元に戻ることもありえるが、しばらくはその京都で自分を磨いて働きたい。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

就職活動を始める段階から、中堅・中小に絞っていた。大手企業に勤める先輩に、「自分のやりたいことが世に出ない、なんのためになるかわからない」といった話を聞いていた。その影響もあり、自分の仕事が目に見える仕事がしたい、企業と一緒に成長したい、と思った。早い段階から前線に立たせてもらいたかった。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

マイナビだけを利用。それに載っていない企業は目にとめていないので、どの媒体で中堅・中小企業を探せばいいかはわからなかった。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

(既に前項で回答済)

2－2・中堅・中小企業を就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

大手企業と情報面で比べると、福利厚生は弱い。住宅手当がないのは厳しい。しかし、それは一番の条件ではない。まずは、自分がやりたいことで決めた。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

昔から介護施設向けの効率的システムづくりをやりたいかった。採用の段階からその思いを伝えていると、「そんなにやりたいならプロジェクトリーダーとしてやってくれるのか」との社長の言葉をもらった。これは願ってもなかったこと。防犯システム分野には、機械・電気・ソフトウェアの全てを活かし携われる。

更問 ・友人・両親・周囲の声(阻害要因)

影響は大きくはなかった。最初は公務員を勧められたが、向いていないと思っていた。最後に自分のやりたいことを応援してくれた。自分の意思を優先してくれて、両親が背中を押してくれたのは嬉しかった。

・大学の役割

大学の就職支援はあまり活用しなかった。最初から自分の目で見ただけ。一度相談はしたが、話を聞いてもらっただけ。

2-4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思いますか。

(1-4、2-2、2-3で回答済)

2-5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

説明会30社程度。採用試験は20社程度を受け、内定2社。

<現在>

3-1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

入社3か月目に次期商品の選定と検証をさせてもらった。大きな仕事を任せてもらったのは自信につながった。

逆にこれはいい点でもあり、悪い点でもあるが、一人ひとりが色々な業務を担当しているため、一人が欠けると大変なことになる。

3-2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

(3-1で回答済)

3-3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。

(OB訪問・リクルーター・情報媒体等)

一番避けるべきは、ミスマッチだと思う。会社側からもっと求める人材を明確に伝えるべき。そこに「我こそは」という人が集まれば、いい人が集まると思う。大学へ企業から訪問したり、学生が気軽に触れる機会があればもっと良いのではないかな。

更問 ・インターンシップ

十分ありえると思う。受入側として参加者を見ていると、どんどん参加すべきと思う。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

就職活動を重荷と考えるなでほしい。メールの返信が多くなっても、エントリーしたのは自分。「企業から来てください」と言われる機会は就職活動以外にはないので、どんどん自分から知っていくチャンスと思って積極的に活動してほしい。

G 社

(業種：半導体製造装置等精密機器製造／調査対象者の担当業務：開発部／性別：男性)

<就職活動前>

- 1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。
修士卒で、どんな企業があるのかという楽しみがあった。化学出身で元々半導体に興味があった。LEDなど光関係の半導体を扱っている企業で研究を活かしたい思いがあった。
- 1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。
滋賀県出身。高校から京都で思い入れはあった。地元と職種で絞っても色々あった。
- 1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。
規模は関係なかった。リーマンショック直後で、今まで見えてなかった企業にも関心が向いた。
- 1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。
イメージは特になかったので、マイナビなどネット中心に活動していた。

<就職活動中>

- 2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。
ものを作っていく過程にオリジナルなもの、オンリーワンなものがあるところに興味があり、京都の企業にはそれがあると感じていた。説明会でも独自製法の説明などがあり、大変関心を持った。社長の言葉で、「技術屋集団になるな」と仰っていたことが、MOT大学院など経営にも興味がある自分にとっては、バランスが取れていると感じ共感した。
- 2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)
- 2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。
(前項で回答済み)
- 2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思えますか。
大企業は、広告などを出し大々的に採用活動をしていて間口が広い。その点、中堅・中小企業は間口が狭い。自分の就職活動では、直接電話をかけるなど、学生の頃しかできない面白い就職活動ができた。
- 2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。
技術系の研究職では2～3時間の会社見学があった。会社見学がある所は、一番雰囲気もつかめて興味がわく。研究室とのつながりで協力してくれる会社を見学してみると、研究室との雰囲気と違和感がなく、ミスマッチを防ぐ意味もあると思う。

<現在>

- 3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。
企業は効率よくお金を稼ぐイメージでコストパフォーマンスを切り詰めているイメージだったが、現状では開発・研究では恵まれている環境だと思う。下請け会社かどうかとい

う違いもあると思うが。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

やることはいくらでもある。やりたいことは何でもできる環境。部署間の壁が低く、色々させてもらえる環境。

3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。
(OB訪問・リクルーター・情報媒体等)

会社見学で現場を知る機会を与えてほしい。どういったことをしているのか、仕事内容がわかれば興味ある学生はついてくる。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)
会社見学はいい経験になる。ものが作られる過程を知ること興味を持てたらいいと思う。

更問) インターンシップ受け入れについて

以前は大学コンソーシアム京都から、3回生を2週間程度の受け入れをしていた。事前学習がしっかりセットされていないと難しい。大学単独でされているインターンシップについては、授業の延長で物足りなく感じる。中途採用を通年で始めたことにより、研修が難しくなり現在は受け入れる予定はない。

H 社

(業種：設備工事／調査対象者の担当業務：電気工事部門／性別：男性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

有名企業に行くのだろうというイメージで学生生活を送っていた。学生の頃は、製造業に関心があった。工業高校出身で、大学時代は電気を学んだ。高校3年間の知識も無駄にしくなかつた上、電気で貢献したい思いがあった。元々手を動かして何かすることが好き。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

滋賀出身。滋賀に対するこだわりが強かった。滋賀には工場が多いので就職先はあるのかなと思っていたが、京都には名だたる企業が多いので、そこで頑張ってみたい思いがあった。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

最初就職活動を始めたころは、大企業で働きたかったという思いも正直あった。先輩等から、働く場としてのギャップがあると聞いた。自分がイメージしているものは、そこには無いと思うようになった。大企業では、大卒だと研究職・開発職がメインで、他部署とのつながりが少ないと思う。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

人とのつながり、温かさを感じる。そういうつながりがあれば、楽しく働けると思った。サッカーを続けてきて、個人で仕事をするというよりも、グループでわいわいというのが良かった。現在現場に出て、一年目でフォワードをはらせてもらえるのは、中堅・中小企業のまさに強み。友人と話していても、「もうそんなことまでしているの？」と言われるのはうれしい。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

「電気が生かせるところ」という思いで就職活動を始めた。大学で大手企業への紹介は成績順ということもあり、中堅・中小企業へも目が向いた。

更問 ・就職活動をする上での情報源

東大阪の一部の工場が集まって作成されたサイトでも検索した。インターネット以外では、会社案内のパンフレットや大学内掲示板をチェックした。インターネットで見ると、自分で見るのとでは随分違うイメージもあったので、自分から積極的に足で稼いだ。

2－2・中堅・中小企業を就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

更問 ・友人・両親・周囲の声(阻害要因)

友人が大手企業への就職が多かったので、名前を知られていなかったのは少し不安になったところもあったが、両親が「自分で決めたことなら。」と背中を押してくれた。

更問 ・ フロー

キーワードにかかれば全てエントリーして、やりたい事に少しでも関係すれば説明会へ行く。足でかせぐ就職活動を行い、中堅・中小企業では最初から人を見てくれるイメージがあり、選考を受けていく中で大手は消えていった。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

説明会で、「仕事にも本気、遊びでも本気」という言葉を聞き、将来のイメージが見えた。自分のやりたいことと会社でできることがマッチし、人と触れ合いながら仕事ができると聞いていたので、ここしかないと思った。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思えますか。

説明会で若手社員の方と話す機会があったり、工場見学ができた、将来をイメージしやすい。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

エントリー100社。説明会60社程度。面接20社程度。内定2社。

<現在>

3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

想像していた以上の仕事をさせてもらえて、度胸がついた。いいギャップが多く刺激的で、毎日しんどい中にも面白さがある一年だった。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

(前項にて回答済)

更問 ・ 中堅・中小企業ならではの悩み

上司がスーパーマン。この人がいなかったらどうしよう、という思いはあるが、自分にとっての理想像。自分が目指す目標を明確に持てるのは、幸せ。

3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。 (OB訪問・リクルーター・情報媒体等)

企業側からもっとアピールしないと、学生は気づかない。企業と学生がつながり、ふれあえる場があったらいいと思う。自分は経験していないが、インターンシップ等で働ける場が体験できるのは貴重。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

自分が何をやりたいか、その軸があればマッチングできる。まずは、自分が何をしたいか、一番難しいがそこを真剣に考えて行動すること。

I 社

(業種：印刷／調査対象者の担当業務：マーケティング部門／性別：男性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

3回生の秋から始めるにあたり、百貨店のバイヤーがやりたかった。その他は服飾系。デザイン経営工学の学科で学び、業界よりも職種にこだわるようになった。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

勤務地にこだわりはなかった。むしろ、様々なところに行けるならば転勤のあるところがいいと思った。京都は雰囲気のある町なので、住みやすい町だと思っている。将来的ビジョンとして、いろんな所へ行ってみたい思いはある。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

そもそも中堅・中小企業への興味関心はなかった。3月、4月の時点で、どうしても行きたかった百貨店の内定がもらえなかったことがきっかけで、何をしようか考えなおす契機となり、中堅・中小企業への視野が広がった。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

最初は、イメージはつかなかった。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

大学で学んだことを将来的に活かせる環境であれば、業界は関係なかった。情報収集はまったくしていなかったが、就職サイトから職種で絞って、業務内容や先輩の声、学んだことを活かせるかどうか、が決めるポイントだった。デザイン・経営・工学の三本柱を学び、その中から経営に絞ったので、中堅・中小企業に就職することで周りの動きがわかり、経営の成り立ちがわかること、マーケティング部門に関われることは本当にストライク。社長と近いことがすごくいい。その点、京都は経営者が多くいるのは面白い。

2－2・中堅・中小企業を就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

更問 ・友人・両親・周囲の声(阻害要因)

中堅・中小企業に就職する友達も多かったので、友達の声で気になることはなかった。両親が公務員なので、公務員になってほしかったようだが、普段のコミュニケーションの中で就職活動の進捗について話していた。両親からの「好きにしたらいい」「頑張れよ」の声がうれしかった。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

採用活動に、時間をすごくかけてくれたところに、自分を見てくれているという実感があつた。よく見て採用していただければ、きっと合うという確信があつた。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思いますか。

大学の研究室に求人の話があり、OBの先輩や教授の話を聞いて、将来的にやりたいことをやれるのではないかと思い、採用試験が始まった。最終面接で、土山社長から、ビジョンを明確に語られたことにすごく惹かれた。直に伝わるものが大きい。一人にかかる時間が長いことが、とても良いことだと思った。少人数の学科のため、教授との距離がすごく近かった。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

エントリー数20社。面接・グループワーク20社程度。最初に内定をいただき、終了。

<現在>

3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

一人で担当営業に回るなど、大企業では任されないことができる。先輩との関係が親密で、色々質問しやすい環境にある。外部セミナー等色々参加させていただけている。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

(前項にて回答済)

更問 ・WEBの基礎を学んだ時点でWEB部門からマーケティング部門への人事異動について

もう少しやりたかったと思うが、印刷会社本来の仕事に携われるようになったのは良かった。WEBから印刷へと融合させていきたい。

**3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。
(OB訪問・リクルーター・情報媒体等)**

企業側が欲しい人材を明確にし、学生が学んでいることとマッチするところに絞って声をかけていくなど、直接情報を投げかけたら良いのではないかな。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

企業の名前ではなく、自分のやりたい事を明確にして、それでやりたいことができることをさがしていくことが大事ではないかと思う。

J 社

(業種：一般医薬品開発・製造／調査対象者の担当業務：研究開発／性別：男性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

高校の世界史の授業でペニシリンについて知ったことがきっかけで、人の役に立ちたいと思うようになった。薬学部に進学し、製薬会社、MR、卸問屋、薬剤師、研究員と考える中で、目の前の患者だけでなく広く影響を与えられる仕事を考えた。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

大阪出身。関西圏で探したかった。特に京都という意識はなかった。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

眼中になかった。企業研究自体あまりできていなかった。リクナビやネットが主だったが、大学の進路支援課などいろんな媒体を使えば良かったという思いもある。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

給与や手当などの保障や安定性の部分に不安があるイメージ。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

企業名は聞いたことがなくても、製品を説明すると実はよく知っているものがあったり、そういうことで理解してもらえた。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

「やりがいを感じられる会社」という社長の言葉。実際面接等においても、すごく距離の近さを感じた。本心を話してくれると心に響く。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思えますか。

研究室同士のつながりが強い。クラブ活動での先輩からの紹介からのつながりで会社見学をさせてもらい、上役から社長までお話をさせていただいた。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

エントリー20社。説明会5、6社(製薬メーカー)。学内セミナーもあった。面接3社。

<現在>

3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

仕事内容が白衣を着る仕事ではなかった。研究開発部といっても色んな仕事内容があることに気付いた。上役とも日々を顔を合わせるアットホームな雰囲気、小回りが利くと感じる。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

ものを言いやすい環境にあるのでアイデアが商品になりやすい。大手にない良さは、1年目からでもいろいろな仕事を任せてもらえ、忙しい部分もあるが、仕事をしている実感が湧く。同期が3名と少ない上に、異なった部署に配属されているため、コミュニケーションを取り合い、同期同士の仲を大事にしている。

**3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。
(OB訪問・リクルーター・情報媒体等)**

企業から大学へ出向いて、「実はこういうものを作っている」と説明して認知度を上げることが重要に感じる。学生はネームバリューに依存しがち。そのギャップを埋めていくことで学生の関心を引ける。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)
人脈や人との関わり合いが大切。意外なところからつながっていくこともある。また、付け焼刃では面接でボロが出るので、自己分析等事前準備は必要だと思う。

K 社

(業種：不動産仲介業／調査対象者の担当業務：営業(窓口対応)／性別：女性／中国・黒竜江省出身)

<就職活動前>

- 1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。
福祉や貿易関連の会社に勤めたかった。しかし貿易会社だとどうしても中国や中国人とのつながりが多くなり、狭い範囲でしか仕事ができない。もっと日本のことや日本人の仕事のやり方を学びたかった。
- 1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。
京都という地域は日本の中でも特に文化・伝統・歴史があり魅力的な街だと考えている。ただ外国人の受け入れなどにカベがあるように感じた。
- 1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。
当初、福祉関連の仕事を希望していた。福祉関連の施設は多くが中堅・中小企業。
- 1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。
やはり安定感や給与の面で厳しいというイメージはあった。ただしプラスの面としてチャレンジできたり、学ぶことが多かったりと将来的にはプラスの経験になると考えている。中小企業に勤務している友人は様々な仕事を経験できていると言っていた。

<就職活動中>

- 2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。
就職活動が続けていく中でなかなか内定がもらえなかった。さらにビザの問題もあり、夏ごろから方向転換をした。
- 2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)
福祉関係の仕事だとビザが下りなかった点。ただ最終的には中国で福祉施設を経営したい。
- 2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。
大手の不動産会社と異なり京都にしか店舗が無い。京都地域に密着しているという点が要因となった。また社長の「積極的に若手に任せる」という方針に共感した。せっかく働くならば様々なことを経験したかった。先輩社員の話でも2年目から3年目の若手の活動提案を社長が受け入れてくれることもあった。
- 2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思いますか。
- 2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。
約70社にエントリーし、そのうち10社で面接まで進んだ。最終的に内定は1つこの企業のみ。ご縁があったと思っている。
- 更問 ・留学生として苦労した点
言葉の問題。今でも苦労している。意味やニュアンスなど分からないことがある。

<現在>

3-1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

不動産会社だと無理やりに物件を押ししていくのかと思っていた。実際そんなことはなく、地方出身の学生のお客が多いのでどのように学生生活をサポートしていくのかという所が重要だと感じた。自分の描く理想と、ビジネスとして利潤を出さなければならないという理想と現実のギャップがあった。

3-2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

人との商売なので様々な苦労がある。だからこそ成長できたと考えている。今後のキャリアにとってもこの経験は財産になっていくと考えている。

更問 ・実際に中堅・中小企業働いてみて

社員同士の絆が深い。質問にはなんでも答えてくれる。困った顔をしていると助けてくれる。

3-3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。 (OB訪問・リクルーター・情報媒体等)

留学生をめぐる就職支援体制が充実していない。大学には留学生専担当の職員がいたが、留学生対象の説明会やセミナーなどは無かった。京都駅の伊勢丹にある留学生の就職をサポートしてくれる施設を利用した。

更問 ・就職活動の面接について

最初は何を聞かれるのか分からなかった。周りの人が質問の答えを覚えているように話しているところを見て違和感もあった。

更問 ・インターンシップについて

インターンシップは参加していない。インターンシップの現状はレポートを出すだけなど本当の勉強になるのか疑問に思っている。効果は職種を知ることができるくらいなのではないか。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

不景気ということもあり、安定や大手企業に目が向きがち。大事なものは「最終的に何がしたいのか」を考えること。自分の夢に向かっている時の苦労は苦労ではない。若者が忘れていけないのは強さと決断力。がんばるということは強くなるということ。

L 社

(業種：男女下着製造／調査対象者の担当業務：材料購買／性別：女性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

自分が何をしたいのか描けていなかったのも、業種は限らず幅広く説明会に参加した。学内セミナーで会った先輩に一目惚れした。出会う人、出会う人皆さんが生き生きしていて、そんな「人」から入った。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

広島出身。時間の経ち方や感じ方は、大きな都市ほど流行に敏感。今ある環境下で精一杯働きたい。のんびり働くよりも、常に時代を追いかけていたい。京都へのこだわりはなかった。下着メーカーである点に惹かれた。「京都」ではなく「何かをしたい」とか「働く環境」にこだわった。京都企業は、京都の企業であることを誇りに持って、ガツガツしている。作ってきたものを大事にしながら成長させていこうという思いが強いと感じる。

更問 ・京都企業について

4、5社受験。L社に出合って、京都の企業のすごさを感じた。それがきっかけで、学内の「京都企業セミナー」に参加した。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

逆風はまったくなかった。これまで自由にやってきて、やりたいことをやってほしいと応援された。

更問 ・大学時代の学び

英文科。現部署において、海外メーカーとのやりとりが多い。言葉が違う人と専門用語を交えてコミュニケーションを取る上で、学生時代に外国の先生とコミュニケーションを取っていた経験が生きている。

更問 ・現在の業務について

こういう部署を知らなかった。就職活動中に思ったイメージは、セールスしかなかった。就職活動でメーカーを回るとセールスの話ばかり。そういう意味では予想していない部署。でも、ジョブローテーションで4～5年で異動してしまう。今はいろんな部署を経験してから、一番やりたい部署へはまだ先にとっておきたい。ブランド、企業価値を創造する一員になりたい。

その実現のためには、自分の意見を持っていて、言い合える人と仕事がしたい。けんかできる人と仕事がしたい。後輩には、素直であること、その上で思いを持っている人に入っ

てほしい。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思いますか。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

エントリー登録50社。説明会30社程度。エントリーシート10社程度。面接5社程度。L社の最終面接がダメならば就職活動をやめるつもりだった。内定結果が出た時点で全て終了。

更問 ・大企業におけるコミュニケーション

コミュニケーションでもっている。飲み会が多い。ジョブローテーションが活発なので、多くの部署に知り合いができる。

更問 ・「京都企業」の就職活動支援制度は十分だと思いますか。

「京都企業」という意識はなく就職活動をしていた。それで括る必要もないのではないかな。あえて全面に出すことで敬遠する人もいるのではないかな。ただ、京都企業を探している人にとって出会う場がないのも事実だと思う。振返ると、人事やOBの方とたくさん話した企業に興味があった。リアルに働いている姿が見えると興味がわく。

<現在>

3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

色々な職種の方がいらっしゃるけれども、総合職は皆生き生きしている。セミナーで憧れる人に出会えたけれども、入社後も変わらず生き生きしていて、それぞれの仕事に対する思いや熱さを感じる。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。
(OB訪問・リクルーター・情報媒体等)

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

学生は選んでもらう意識が強すぎる。「自分が選んでいる」という意識を持ってほしい。下からの就職活動では、自分に失礼だと思う。自分で足を使って、様々な人と出会ってほしい。

M 社

(業種：ブライダル企画・催行／調査対象者の担当業務：採用・研修・労務管理／性別：男性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

理系・環境情報学部出身。研究室ではメーカー等の業界就職が多い。経済情勢を見て、豊かさの視点が変更された。飲食店の接客のアルバイトの経験からサービスに関心があった。人の心を動かしたいという思いからブライダル業界を考え始めた。当初はメーカーを中心にエントリーしており、選考が進む中幅広く考えるようになった。製造業への思いがあり、ドレスを手掛けられるところに魅力を感じた。他ブライダル関係の会社は受けていない。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

全く意識ない。京都は歴史を感じる町、伝統を重んじているイメージ。東京採用だったので、東京勤務と思っていた。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

大企業7割。中堅・中小企業3割。中堅企業は「環境」をキーワードにアピール。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

いろんな人と接触し、早く成長できる。風通しがいい。仕事のスピードが速い。理系が大企業で働くと、生産部門等にずっといるイメージ。中堅企業で色々なことを経験できると思っていた。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

2年生の終わりから大学でのセミナーで、中堅・中小の優良企業の良さや魅力を学校側から提供された。そこで見る目を養った。大学選びも就職活動に積極的な大学を考えていた。高校1年生からアルバイトをしており、大学生のアルバイトから大学の情報を色々聞いてきた。環境問題がクローズアップされる中で学部選びをしてきた。大学の就職サポートにおいては週2、3回、就職対策、職業とは何か、社会人とは何かを考えさせるセミナー。

2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

関東において、認知度が低かった。また、サービス業、ブライダル業は大丈夫かという懸念。教授からは専門を生かせないことを懸念された。これから伸びる業界と信じている、と思っていることを伝えることで納得してもらった。世界が小さく身近になる中、国内だけでは考えられない。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

「物にあふれる現代に人の心を豊かにしたい」という社長の言葉。離職率など企業にとって出たくないデータも出していた。説明会で直接聞いて、疑問は払しょくされた。そのウソをつかない企業姿勢が良かった。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思いますか。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

更問) 今後のキャリアビジョン

店舗は一組一組に最高のサービスをするところ。現場は感動を作る側のサポートであり、人財開発部は現場の源流に携わる喜びを見出す場にやりがいを感じる。学生時代に、学園祭実行委員になり渉外を担当していた。縁の下の力持ちとして、うまく人の流れを作りたい。

<現在>

3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

プラスのギャップとして、ブライダル企業は人がメイン。メンバーはフランクでチームの結束力がある。マイナスのギャップとして、気配りやホスピタリティの強さを感じるので、自分がここにいていいのかと感じる。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

繁忙期など管理本部から現場へ出向いて手伝う機会がある。現場の仕組みや悩みを聞くコミュニケーションの機会としてとても良いと思う。現場から管理本部への異動についても申請できる。

3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。
(OB訪問・リクルーター・情報媒体等)

学生時代に中堅・中小企業に触れる機会を増やす。大学学内セミナーでも、大企業だけでなく視野を広く持つと中堅企業への理解ができる。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)
軸を持つこと。世界の今後を見る目を養う。

N 社

(業種：進学塾／調査対象者の担当業務：小中学生に算数・数学を教授／性別：男性)

<就職活動前>

- 1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。
何もしたいことがなかったので、知ることから始めた。11月～ジャンルを問わず回った。
エントリー数は10くらい。説明会の回数合わせると30くらい。筆記は5社、面接は5社。
- 1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。
岐阜出身。京都が好きで働きたかった。
1. 関西の人間性。温かさ。会話やコミュニケーションがとても素晴らしい。
2. 地理的に神社仏閣
- 1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。
定年まで一生働ける会社に行きたいという思い。
- 1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。
大変。安定がない。残業が多い。(雑誌・インターネットの情報)

<就職活動中>

- 2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。
会社の風土を重視したとき。「悩み続けられる会社」「自分の裁量」が楽しいと自己分析で気が付いたとき。中高時代から折に触れ、自分を振り返る機会を作っていた「悩み続けた中高時代」だった。そこで自己分析するくせがついていた。
- 2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)
特になし。
- 2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。
自分が幸せに生きる方法、幸せとを感じる部分を人に分け与えていきたい。という点と京進の「リーチング」(…授業の一環に人間性を伸ばす授業がある)がマッチしたため。
- 2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思いますか。
選考のなかで、入社後のネガティブなギャップをなくしていけるところ。
- 2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。
なし。

<現在>

- 3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。
教育分野・顧客への責任を負っていると強く自覚できるポジティブなギャップ。
- 3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

上司が多角的な視点を持ち、職種にまたがってこなせる能力。VISION を示してくれる。
目指す講師像。

3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。

(OB 訪問・リクルーター・情報媒体等)

説明会やマッチングの機会を増やすこと。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

説明会を受ける前に、「自分が耐えられるのは何か?」「自分がいきいきできるのは何か?」
をしっかりと見つめ悩んでほしい。説明会の現場では自分とのマッチングにだけ集中できる
事前準備をしておいてほしい。

○ 社

(業種：不動産管理／調査対象者の担当業務：不動産営業（賃貸・売買）／性別：男性)

<就職活動前>

- 1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。
エントリー数 300 くらい。ほとんど中堅企業。説明会 100 くらい。面接 30～40 くらい。
5 月に長栄様から内定。大手よりも中堅企業希望。職種問わず。「楽しい仕事はないけれど、自分が楽しめるかどうか」
- 1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。
九州出身、京都市育ち、大学は大阪だったので土地の縛りはなかった。場所よりも、職種ややりたい仕事を重視していた。
- 1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。
全員で 3 人とかそういった企業に興味があった。仕事が忙しいことは同じ。自分の裁量が大きい会社。大企業は最初から決められていて面白くないだろう。意見も通るし面白いだろう、という思い。
- 1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。
(主観だが) 裁量がある。アットホーム。

<就職活動中>

- 2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。
- 2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)
特になし。不動産業は大変忙しい業界だが、自分が納得できるところに行きたいという信念があったので周りは気にならなかった。
- 2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。
アットホーム。海外研修にも魅かれたが、それはあとでついてきたもの。採用を決めてもらえた「縁」を感じた。
- 2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思えますか。
SPI がない。社長が最初の段階から参加される。人柄を見てもらえている感じがする。
- 2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

<現在>

- 3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。
総務と営業の組織の壁を感じる。(マイナス) 部署間の連携について。
成果報酬のボーナス (プラス)
休みが取れない (マイナス) → 反骨精神につながる。2 年目は頑張っけてスケジュール管理をして休みも取っていききたい。

地域差による営業成績の不公平（マイナス）

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

営業成績がランキングされ、目に見える成果として出てくる数字の世界ではあるが、お客様にお礼を言われると、「いい仕事をした」と思える。

社内でのコミュニケーションとして、成績優秀者は役職者との食事の機会がある。それは努力が評価されることにつながると思う。しかし、数字で表れない部分をどう評価するか等、今は現状を学び、いずれはマネジメントなども考えたい。

**3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。
（OB訪問・リクルーター・情報媒体等）**

大手とは違って入りやすさを求めている人も多い。中堅企業でまとまったセミナー開催なども有効ではないか。また、1週間程度のインターンシップも、仕事を知るほどではないけれど雰囲気を知る機会にはなる。話を聞くだけでなく、行ってみなければわからないことは多い。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

（「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと）

就職活動うまくいかなければへこむけれど、死ぬわけではない。

また、就職したら縛られる。アルバイトだったら縛られない。ある意味枠は広がる可能性だってある。私は、就職できなかつたらTV局のADにでもなろうかと思い、「おちてナンボ」ぐらいの気持ちで就職活動をしていた。それぐらいのほうが自分の良さがでる。

就活は仲間ができる。出会いが楽しかった。楽しんで妥協しなければ合わずに辞めることもない。

心に軸をもて。

楽しい仕事はないけれども、自分が楽しめるかどうか。

軸があれば人生は開かれる。

P 社

(業種：事務機・オフィス家具・ソフト販売／調査対象者の担当業務：営業／性別：女性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

3年生の夏休みに、ほんの興味からテレビ局のインターンシップに応募したが参加できず、夏休み明けから就職活動開始。文化人類学専攻で、人からお話を聞いてそれを分析し、文章にまとめることや本を読むことが好きだったため、漠然と広告や印刷業に興味があった。書店のアルバイトでPOPを書くなどの企画に携わった経験から、自分で考えて提案する営業職を希望するようになった。

エントリー100社 説明会 50社 選考 20社

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

京都府北部出身。大学から市内に出てきて、住みやすい街だし、働くなら京都がいいと思うようになった。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

最初は、名前を知っている企業に就職活動サイトからエントリーしていたが、就職活動の選考の中で少しずつ意識していった。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

正直なところ、「名前を知らない企業＝中小企業」というイメージで、規模等を考えたことはなかった。会社のイメージとしては、自分の裁量が大きい。福利厚生がよくない。激務・残業代がない。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

責任感をもってバリバリ働けることを希望していたので、女性として福利厚生面は気になった。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

選考中に社員の方と接する中で、肌で感じる社風の良さなどから、働くイメージができた。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思えますか。

選考段階の初めから社長が出てくるなど、一人一人を見ている印象があった。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

企業訪問やOB・OG訪問の経験はないが、先に環境を知っておくことはとても有意義だと思う。採用試験の時に初めて会社を訪れても、緊張で雰囲気を感じることはできない。

<現在>

3-1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

思っていた以上に社員に対するケアがあり、社員満足度は高いと感じる。声を挙げれば通りやすい環境。ここまで任せてもらえるのか、とギャップを感じる反面、自信につながった。

3-2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

初めての女性営業職として、新規事業を任せてくれている。先例がない分不安も多いが、自分の意見も反映される。自分たちが初めての女性営業職となるので、社内に直接的なキャリアビジョンをイメージできる方はいないが、仕事上他社の方と接する中で、女性らしさのある職業の方が理想の一つ。

3-3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。 (OB訪問・リクルーター・情報媒体等)

代表の想いや人柄と触れ合える場所を増やすことで、その会社の本質を見てもらえる機会となるはず。規模ではなく、企業理念やトップの思いに共感し会社を選ぶと思うのでそこは大切だと思う。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

そこでどう働いているイメージができるかどうか、参画意識を持って働けるかどうか。そのために業界・業種にこだわらず視野を広げてほしい。またいろんな企業を見られるチャンスなので、インターンシップなど企業を肌で感じる機会をふやしてほしい。

Q 社

(業種：信用金庫／調査対象者の担当業務：融資／性別：女性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

クラブ活動で主将を務め、最後の試合が終わってから、3回生の1月頃スタート。勤務地「京都」で絞った。銀行をメインで受けた。固くて堅実なところが自分には合っていると感じ、その上で生活の発展に貢献できる仕事がしたかった。慣れた場所のほうが力を発揮しやすい。業種も特にこだわりなし。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

京都で一生働きたい。地元だから。住みやすい。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

京都で働くと考えたと視野に入っていた。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

地域密着。フットワークが軽い。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

京都で働けることが第一だった。

2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

特になし。

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

京都の企業であるということ。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思えますか。

女性の面接官に魅力を感じた。じっくり人を見て対応をしていただいたと思っている。実際に活躍されている方を見てみると、女性のキャリアについても配慮してもらえる。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

特になし。

<現在>

3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

一人ひとりのモチベーションが高い。個人情報への対応など、学生時代には気が付かなかった仕事の厳しさや専門知識など勉強することの多さを実感した。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

成長できると感じた点は、経営層に近い周囲の方の一つ一つのしぐさなどを見るとモチベーションも高く、自分自身勉強になるところがたくさんある。

3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。

(OB訪問・リクルーター・情報媒体等)

企業が集まって大学へのあっせんをお願いします。業種で絞ったセミナーなど。実際自分も大学のセミナーや企業が行う質問会を利用して企業を見てきた。

＜これから就職活動をする学生へのアドバイス＞

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

大人とたくさん話す機会をもつようにするといいいのではないかな。大人と話すと自分の課題が見えてくる。

ひとつでも頑張ったと胸を張れることを持ってほしい。

R 社

(業種：精密機器メーカー／調査対象者の担当業務：経理／性別：男性)

<就職活動前>

1－1・就職活動をはじめる段階で、どのような職種や企業に就職したいと思っていましたか。

メーカーで宇宙航空産業・素材・計測の3分野に興味があった。いろいろなところに関わりたい思いがあった。

職種はそれぞれ面白そうという希望。エントリー50～60くらい。面接20くらい。

1－2・京都で働きたいという思いはありましたか。

福岡出身。政治経済学部・政治学専攻。

特になし。日本全国どこでもいい。大学で東京に出て、どこでもやっていける自信がついた。何ができるのかで選んだ。

1－3・中堅・中小企業について関心を持っていましたか。

規模よりも仕事内容に興味を持てるかを重視。宇宙航空産業は趣味にして、その他幅広く関わりの持てる業界で絞っていった。

1－4・中堅・中小企業についてどのようなイメージを持っていましたか。また、そのイメージはどのような情報にもとづいたものですか。

規模が小さい分顔が見える関係性。仕事の裁量が大きい。(就職活動をしていく中で感じたが)経営層に近い。創業者の話がきける。華やかではない。

<就職活動中>

2－1・どのようなきっかけで、中堅・中小企業を選択肢として考え始めましたか。

選考を通じての雰囲気・人に魅了されて決めた。人事担当者が部屋にいて、話しかけてくると気が楽になる。また、こまめに連絡やフォローをもらえた。

2－2・就職先として決めにくい要素はありましたか。また、それはどのような点ですか。(ネガティブに思った要素)

特になし

2－3・最終的に決め手となった要因は何ですか。

フィーリング。選考段階で折に触れ、社員の方や受験者と接することで、一緒に働く雰囲気がつかめた。また、創業者がいる会社だと、その創業者の思いを知ることができより意欲が高まった。

2－4・中堅・中小企業を対象とする就職活動の特色は何だと思いますか。

頑張って探さないと見つからない。大企業だと、CMやWEB等で情報は向こうから発信されるが、中堅・中小企業だとこちらから取りに行かないとなかなか見つからない。大学のキャリアセンターの求人票を活用した。また、業界登録団体のサイトなども利用。日経ビジネスの「イノベーション力のある企業」にランキングされたことで当社の存在を知った。

2－5・就職を決めるまでに企業訪問をしましたか。

<現在>

3－1・入社後現在まで、入社前のイメージとのギャップを感じたことは何ですか。

配属部署が経理だったこと。漠然と、色んな人を納得させることが面白そうと思い営業職希望だった。

3－2・入社して、中堅・中小企業だからこそ実現できると感じたこと、また自分が成長できると感じた点はどこですか。

全く知らなかった仕事内容だったが、できる業務が一つずつ増えていくことに自身がついてきている。

3－3・中堅・中小企業の魅力発信や採用活動について改善すべき点があれば聞かせてください。 (OB訪問・リクルーター・情報媒体等)

大手企業は、IR等を含め最新情報はあちらから発信される。ネット情報がないと調べられない。「知らない」というのは敷居が高い。

規模で判断するわけではないと思うので、「中小・中堅」ではなく「産業」という切り口でアピールしてはどうか。

<これから就職活動をする学生へのアドバイス>

(「働く」ことを考える上で大事に思っていることや就職活動のノウハウなど学生に伝えたいこと)

企業の食わず嫌いはよくない。就職活動と同時に将来の趣味も見つけて楽しんでほしい。就職仲間との関係も大切。

本書は 一般社団法人京都経済同友会と 一般財団法人地域公共人材開発機構による
共同著作物です。引用などは著作者の権利を侵害しない範囲にかぎって認めます。

【事務局】

一般社団法人京都経済同友会

〒604-0862 京都市中京区烏丸通夷川上ル

京都商工会議所ビル 5 F

(TEL) 075-222-0881 (FAX) 075-222-0883

(E-MAIL) doyukai@kyodoyukai.or.jp

(H P) <http://www.kyodoyukai.or.jp/>

一般財団法人 地域公共人材開発機構

〒600-8533 京都市下京区中堂寺命婦町 1-10

京都産業大学むすびわざ館 3 階

(TEL) 075-432-8101 (FAX) 075-432-8187

(E-MAIL) info@colpu.org

(H P) <http://colpu.org/>

(Blog) <http://blog.canpan.info/colpu/>

